

荷積車ノ取締ヲ嚴ニスル建議……………可決

(建議の大要) 車に國税を賦課せられた當時は、農用車と荷積車との區別を嚴重にして、農用車の檢印は容易に許可されない實況であつた。然るに、車税規則廢止の後には、荷積車の廢車を届出るものが極めて多いと聞くが、若し其の廢車届を寛大に認容すれば、荷積車の激減となつて、其の結果は地方税の減收を招くに至ることを虞れる。理事者は篤と此事情に留意して、取締を嚴にせられたいと、知事に建議するので、案は多數を以て可決した。議員井上吉之助發議。

六坪以上七坪未滿ノ建物ニ戸數割賦課ニ關シ理事者ニ取調

要求ノ決議……………可決

(決議の大要) 五郡に於ける戸數割算出方法に於て、七坪未滿の建物を除外することに定めてあるが、四宿其の他市に接近した町村には、七坪未滿の家屋が極めて多く一齊に之を無税とするのは、三多摩郡に比較して、權衡を得ないことである。さ

りとして、極度の貧民に課税するのは元より苛酷であるから、理事者に於て來春の臨時會迄に、七坪未滿の家屋居住者數其の資力程度、之を六坪若くは五坪未滿に制限して、課税する當否等を詳細に調査して報告ありたいと決議した(議員高松喜六發議)。

第二十一節 明治三十一年の府會

第一臨時府會

本會は、明治三十一年二月十七日午後四時三十分開會し、午後五時十五分散會した。開會に當つて知事子爵岡部長職は、開會の要旨を述べた。

先例に依り、年長議員渡邊友次郎を假議長とし、渡邊假議長は、議員半數改選の當選者を報告し、次に、府會議長及副議長選舉に付ての知事の達に基づいて、先づ、議長の選舉を行つたところ、芳野世經が最高點を以て當選した。

芳野議長は、直に副議長の選舉を行つたが、相澤喜兵衛と吉田幸作の二名が最高三十二點の同點で、斯かる場合に處する規定がない爲め、更めて投票を行ふことに決し、再投票の結果相澤喜兵衛が最高點を以て當選した。

第一臨時市部會

本會は、明治三十一年二月十七日午後五時十五分開議し、午後六時十分散會した。先例に依り、年長議員渡邊友次郎を假議長とし、渡邊假議長は、市部會議長、同副議長並常置委員七名、同豫備員二名選舉に對する知事の達に基いて先づ、議長の選舉を行つて、芳野世經が多數を以て當選した。

次に、芳野議長は副議長、常置委員七名、同豫備員二名の選舉を順次行つたが、孰れも次の適當選した。

市部會副議長

吉 田 幸 作

市部常置委員

芳 野 世 經
松 尾 清 次 郎
横 山 富 次 郎
稻 田 政 吉

佐藤覺次郎

吉 田 幸 作

村 上 楯 朝

市部常置委員豫備員

大 貫 實(即時辭選)

小 島 官 吾

大 森 清 禎(大貫實辭選ニ付次點者ヨリ補充)

第一臨時郡部會

本會は、明治三十一年二月十七日午後六時十五分開議し、午後七時五分散會した。先例に依り、年長議員西野芳寛を假議長とし、西野假議長は、郡部會議長、同副議長並常置委員、同豫備員選舉に對する知事の達に依り、先づ、議長の選舉を行つて、相澤喜兵衛が最高點を以て當選した。

次に、相澤議長は副議長、常置委員七名、同豫備員五名の選舉を順次行つたが、孰れも次の適當選した。

郡部會副議長

大久保善左衛門

郡部常置委員

增田藤助

井上吉之助

高松喜六

中里民平

富岡彦太郎

瀨沼伊兵衛

市倉房次郎

郡部常置委員豫備員

佐野守之助

小島重兵衛

澁谷龜藏

根岸太助

宮城金之助

第二臨時府會

本會は、明治三十一年二月二十八日午後四時四十五分開會し、午後五時十分議事終了散會した。開會の初め知事岡部長職は、開會の要旨を述べた。

議案

府第六號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………修正

府第十九號議案 府會ト郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別

及聯帶經費負擔割合追加ノ件……………可決

府第二十號議案 明治三十年地方稅支出追加豫算……………可決

議決摘要

府第六號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………修正

一金參萬貳千八拾七圓八拾參錢八厘 府廳舎建築修繕費

(修正)金壹萬八千貳百五拾四圓參拾貳錢四厘

内

金參萬貳千八拾七圓八拾參錢八厘

建築費

府廳構内ニ度量衡檢定所建築費

(修正)金壹萬八千貳百五拾四圓參拾貳錢四厘

(修正理由) 規模ヲ縮少シ坪當リヲ減スルニ由ル常置委員會意見

一金九百九拾參圓四拾參錢五厘

監獄建築修繕費

八王子區裁判所構内留置場燒失ニ付再建築費

合計金參萬參千八拾壹圓貳拾七錢參厘

(修正)金壹萬九千貳百四拾七圓七拾五錢九厘

府第十九號議案 府會ト郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ

區別及聯帶經費負擔割合追加ノ件……………可決

一市郡負擔割合第三條中處刑滿期釋放人救護費ノ次ニ左ノ項ヲ追加ス

一諸達書及揭示諸費 市七分四厘〇五
郡二分五厘九毛五

府第二十號議案 明治三十年度地方稅支出追加豫算……………可決

一金六百七拾圓

諸達書及揭示諸費

内

金六百七拾圓

諸達書費

第二臨時市部會

本會は、明治三十一年二月二十八日午後五時十分開議し、午後五時二十分散會した。

議案

市第八號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可決

市第九號議案部 明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………修正

市二十二號議案部 明治三十年度市部地方稅收入追加豫算……………可決

議決摘要

市第八號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可決

一金四千八百九拾九圓貳拾八錢

警察廳舍建築修繕費

内

金四千八百九拾九圓貳拾八錢

建築費

芝警察署及消防二分署地先敷地買入敷地擴張及門柵等新設費

市第九號議案部

明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………修正

一金貳萬七千五百五拾九圓五錢九厘

前年度繰越金

(修正)金壹萬七千參百九圓八拾錢九厘

(修正理由) 聯帶度量衡檢定費建築費府第六號案修正ノ結果ニ伴フニ由ル(常置委員會意見)

一金千九百五拾九圓七拾壹錢貳厘

國庫下渡金

合計金貳萬九千五百拾八圓七拾七錢壹厘

(修正)金壹萬九千貳百六拾九圓五拾貳錢壹厘

市第二十二號議案部

明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………可決

一金四百九拾六圓拾參錢五厘

家屋稅

但實收過ヲ生スヘキ見込分

第二臨時郡部會

本會は、明治三十一年三月一日午後零時十分開議し、午後四時十分終了散會した。相澤議長が病氣缺席の爲め、大久保副議長が之に代はつた。

議案 附諮問案

郡第十號議案部 明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

郡第三十四號議案部 明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正

郡第三十五號議案部 明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

郡第三十六號議案部 明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………可決

諮問郡第九號 舊千住馬車鐵道株式會社布設ノ鐵軌ヲ其ノ儘襲用

營業ノ件……………答申議決

諮問郡第十號

玉川砂利電氣鐵道延長布設ノ件……………答申議決

議決摘要

郡第十號議案部

明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

一金八千四百六拾七圓貳拾五錢四厘

(修正)金四千九百拾參圓九錢八厘

内

金五千貳百五拾五圓拾壹錢八厘

(修正)金參千四拾九圓貳拾六錢六厘

金參千貳百拾貳圓拾參錢六厘

(修正)金千八百六拾參圓八拾參錢貳厘

(修正理由) 府第六號議案度量衡檢定所建築費豫算ノ修正ニ伴フニ由ル(常置委員會意見)

郡部
第三十四號議案

明治三十年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正

一金參千七百七拾八圓六拾九錢壹厘

土木費

(修正)金參千七百四拾七圓貳拾貳錢壹厘

内

金參千七百七拾八圓六拾九錢壹厘

道路橋梁費

(修正)金參千七百四拾七圓貳拾貳錢壹厘 (常置委員會意見)

(原案說明) 二十八年所屬工事ノ處物價騰貴ノ爲メ再三ノ入札ニ請負者ナク豫算不足

ニ付追加スルモノトス

一金貳百四拾壹圓五拾六錢

町村土木補助費

〔道路補助費〕(以樋改築補助費)〔下修正〕

(修正理由) 道路ニ埋設スル以樋ナルモ道路補助費ト稱スルハ適當ナラサルニ由ル(議員井

上吉之助動議)

一金參百拾圓七拾七錢

郡廳舍建築修繕費

(修正)金貳百參拾九圓七拾八錢八厘 (常置委員會意見)

一金參百圓

郡吏員給料旅費及廳中諸費

一金四千五百圓

地方稅取扱費

合計金九千百參拾壹圓貳錢壹厘

(修正)金九千貳拾八圓五拾六錢九厘

郡部
第三十五號議案

明治三十年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

一金參千六百九拾八圓四拾貳錢五厘

雜種稅

内

金貳百六拾四圓

藝妓稅

金參千貳百七拾六圓九拾貳錢五厘

車稅

金百五拾七圓五拾錢

水車稅

一金貳千八百四拾八圓八拾九錢參厘

營業稅附加稅

一金千七百參拾九圓貳拾參錢貳厘

戶數割

一金八百四拾四圓四拾七錢壹厘

雜收入

(修正)金七百四拾貳圓拾錢九厘

賦金

内

金八百四拾四圓四拾七錢壹厘

賦金

(修正)金七百四拾貳圓拾錢九厘

合計金九千百參拾壹圓貳錢壹厘

(修正)金九千貳拾八圓五拾六錢九厘

(修正理由) 郡部第三十四號議案修正ニ伴フニ由ル(常置委員會意見)

郡部
第三十六號議案

明治三十年度郡部地方稅收入追加豫算……………可決

一金百七拾參圓八拾六錢五厘

雜收入

内

金百七拾參圓八拾六錢五厘

賦金

貸座敷引手茶屋娼妓賦金實收過ヲ生スヘキ見込分

諮問郡第九號 舊千住馬車鐵道株式會社布設ノ鐵軌ヲ其儘

襲用營業ノ件……………答申議決

埼玉縣北足立郡草加町大字立野十八番地戸塚彌吉外四名ヨリ舊千住馬車鐵道株式會社ニ於テ布設シタル鐵軌ヲ据付ノ儘買收シ馬車鐵道運輸營業方出願候條左ノ條件ヲ履行セシメ許可セラルルニ於テハ支障ナキ旨副申シ其筋ヘ進達セントス

右其會ノ意見ヲ問フ

一 鐵軌ハ路面ト高低ナキ様施設スヘキ事

第四章 府會の行動 明治三十一年の府會

- 一 鐵軌間及其左右一尺五寸通りノ道路修繕ヲ負擔スヘキ事
- 一 路面及軌道内ハ雨水ノ滯溜セサル様充分ニ排除ノ方法ヲ設クヘキ事
- 一 橋梁暗渠等脆弱ナルモノハ管理者ト協議ノ上改築若クハ修理ヲ加フヘキ事
- 一 乗客昇降ノ外道路中へ停車スヘカラサル事
- 一 公益上軌道ノ一部ヲ變更シ又ハ撤去シ若ハ一時停車ヲ要スル場合ハ無償ニテ之ヲ爲サシムル事

一 營業年限ハ滿二十ヶ年以内タルヘキ事

(答申)從來敷設ノ鐵軌ヲ除去シ更ニ凹字形ノモノヲ用ヒ路面ト高低ナキ様施設スヘキ事ノ一條件ヲ加フルヲ可トス

(修正理由) 現在ノ軌道ハ凸字形ナル爲軌條間ニ窪ヲ生シ往來ノ不便少カラサルニ由ル議員富岡彦太郎發議

諮問郡第十號 玉川砂利電氣鐵道延長布設ノ件……………答申議決

荏原郡世田ヶ谷村田中榮之助外十三名ヨリ別紙道路ニ玉川砂利電氣鐵道延長布設方出願候條左記ノ條件ヲ付シ其筋へ進達セントス

右其會ノ意見ヲ問フ

(條件省略)

(別紙)

延長線路

- 一 荏原郡調布町鍋屋横町ヨリ品川道通り直線狛江村六郷用水際ニ至リ左折シ同用水ニ沿ヒ岩戸石橋ニ於テ黑駒道ニ達ス
- 一 荏原郡世田ヶ谷村大字世田ヶ谷字上町ヨリ二子道通り直線玉川村大字用賀ニ至リ同所厚木街道右側ニ沿ヒ用賀小學校附近ニ至リ矢倉澤道ニ出テ直線玉川堤防砦道ニ達ス
- 一 荏原郡目黒村字宮下交番所前ヨリ目黒道通目切坂下ニ於テ一ハ別所道ニ達シ一ハ猿樂道通元青山七丁目ニ達ス

(答申)本件ハ許可ナカラシムルコトヲ望ム

(修正理由) 現在敷設計可濟ノ部分スラ未タ工事ニ着手セサルノ今日更ニ線路ノ延長ヲ許可スルノ必要ヲ認めサルニ由ル(議員谷岡慶治發議)

第三 臨時府會

本會は明治三十一年七月四日午後四時三十分を以て開會し午後六時十分散會した。開會の劈頭に知事代理として書記官坂本鈺之助が、簡單に開會の趣旨を述べた。

芳野議長は、知事から通知のあつた議員の異動を報告し、直ちに議事に入つた。議事では、地方森林會費追加豫算に關して質問が續出したが、しかし其の質問は、地方森林會が、昨三十年四月法律第四十六號森林法發布の結果組織され、施行後未だ日淺く法文を閲讀しない者が多かつた爲であつて、議案其のものに對して異議があつたのではない。

議案

- 府第七號議案 府會ト郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及
聯帶經費市郡負擔割合追加(地方森林會費)……………可決
- 府第八號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算(地方森林會費)……………修正
- 府第九號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算(水害復舊土木費)……………修正
- 府第十號議案 府會ト郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及
聯帶經費市郡負擔割合追加(諸達書費)……………可決

- 府第十一號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算(諸達書費)……………可決
- 府第二十一號議案 明治三十年農工銀行株式引受資金收支豫算……………可決

議決摘要

府第七號議案 府會ト郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費市郡負擔割合追加……………可決

一市郡負擔割合第三條中貝類養殖場費ノ次ニ左ノ項ヲ追加ス
地方森林會費
市五分六厘四毛三
郡四分三厘五毛七
(原案説明)地價ト戸數ヲ準トシ負擔割合ヲ定メタリ

府第八號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………修正

一金千參百貳拾貳圓九拾錢
(修正)金千貳百四拾五圓拾五錢
勸業費

内

金千參百貳拾貳圓九拾錢

地方森林會費

(修正)金千貳百四拾五圓拾五錢 (常置委員會意見)

(原案說明) 森林法及地方森林會規則ニ依リ保安林ニ關スル事項審議ノ爲メ地方森林會開設ニ要スル諸費ヲ積算ス

府第九號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………修正

一金壹萬千八百參拾五圓七錢六厘 土木費

(修正)金壹萬千五百貳拾四圓九拾七錢四厘

內

金壹萬千八百參拾五圓七錢六厘 治水堤防費

(修正)金壹萬千五百貳拾四圓九拾七錢四厘 (常置委員會意見)

(原案說明) 水害ノ爲メ水制堤防及護岸等破損ニ付之カ復舊費支出ヲ要ス

府第十號議案 府會ト市郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區

別及聯帶經費市郡負擔割合追加……………可決

一市郡負擔割合第三條中處刑滿期釋放人救護費ノ次ニ左ノ項ヲ追加ス

諸達書及揭示諸費

市郡四分六分

(原案說明) 一半ハ戶數ヲ標トシ一半ハ公報配付部數ヲ準トシ歩合ヲ定ム

府第十一號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………可決

一金九百四拾壹圓七拾八錢四厘 諸達書及揭示諸費

內

金九百四拾壹圓七拾八錢四厘 諸達書費

從來新聞紙ニ登載スルヲ以テ公布式ト定メタルヲ本年十月ヨリ警視廳東

京府公報ヲ發行スルコトニ改正ニ付其發行諸費

府第二十一號議案 明治三十一年度農工銀行株式引受資金

收支豫算……………可決

入金 一金貳萬圓

國庫交付金

支出

農工銀行株式拂込金 一金貳萬圓

第三臨時市部會

本會は、明治三十一年七月四日午後六時四十分開議し、午後七時三十五分散會した。

議事の中で、たゞ諮問市第一號市傳染病豫防費補助歩合規定に關する諮問案に對して、議員角田眞平、小島官吾等から、補助歩合は支出議案で決定することが出来るから、此の諮問の如く、原則的に歩合を規定する必要を認めないのみならず、永久に豫算拘束の效力ある事項を決議するのは不可である。故に、諮問案の如く決定するに及ばないと答申する意見が出たが、採決の結果は少數として終つた。

議案 附諮問案

- 市第十號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………修正
- 市第十一號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可決
- 市第十二號議案部 明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………修正
- 諮問市第一號 市傳染病豫防費補助歩合ノ件……………答申議決

議決摘要

市第十號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………修正

一金千百六拾九圓參拾七錢

衛生及病院費

(修正)金九百九拾九圓六拾貳錢

内

金千百六拾九圓參拾七錢

傳染病豫防費

檢疫委員設置及新橋品川兩停車場ニ各一ヶ月間汽車檢疫執行ニ要スル諸費

(修正)金九百九拾九圓六拾貳錢 (常置委員會意見)

市第十一號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可決

一金壹萬千拾八圓七拾八錢七厘

市町村傳染病豫防補助費

内

金壹萬千拾八圓七拾八錢七厘

市町村傳染病豫防補助費

東京市及市内衛生組合ニ對シ補助

市第十二號議案部 明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………修正

一金壹萬七千參百拾五圓九拾壹錢貳厘 家屋稅

(修正)金壹萬六千九百七拾貳圓四拾貳錢八厘

內

金壹萬參百八拾貳圓參拾五錢九厘

徵收ス(キ分
個ニ付九毛三絲)

(修正)金壹萬四拾七圓四拾四錢四厘

金六千九百參拾參圓五拾五錢參厘

臨時家屋檢査ノ結果
實收過ヲ生スヘキ分

(修正)金六千九百貳拾四圓九拾八錢四厘

(修正理由) 府第八號、九號、市部第十號案修正ノ結果ニ伴フニ由ル(常置委員會意見)

一金貳千參拾壹圓參拾六錢 國庫補助金

(修正)金貳千參圓六錢八厘

(修正理由) 支出ノ修正ニ伴フニ由ル

合計金壹萬九千參百四拾七圓貳拾七錢貳厘

(修正)金壹萬八千九百七拾五圓四拾九錢六厘

諮問市第一號 市傳染病豫防補助費歩合ノ件……………答申議決

市傳染病豫防費補助歩合左ノ通規定セントス

右其會ノ意見ヲ問フ

一傳染病豫防法第二十一條各項ノ費用ハ支出ニ伴フ收入ヲ控除シタル金額ノ五

分ノ一ヲ補助ス

二同法第二十三條第二項ノ費用ハ其二分ノ一ヲ補助ス

(答申)諮問ノ趣旨ニ同意ス

第三臨時郡部會

本會は、明治三十一年七月五日午前十一時開議し、議事二日間に涉つて、翌六日午後三時三十分終了閉會した。

議案 附諮問案

郡第十一號議案部 明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算(道路補助費)……………修正

郡第十二號議案部 地方稅支辨ニ橋梁編入ノ件……………可決

第四章 府會の行動 明治三十一年の府會

第 郡 第十三號議案部 自明治三十一年度繼續郡部地方稅支出豫算(道路改)……………廢棄
 至明治三十三年度繼續郡部地方稅支出追加豫算(傳染病豫)……………可決
 第 郡 第十四號議案部 明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算(市町村傳染病)……………修正
 第 郡 第十五號議案部 明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正
 第 郡 第十六號議案部 品川橫濱間電氣鐵道布設ノ件……………答申議決
 諮問郡第十一號 品川橫濱間電氣鐵道布設ノ件……………答申議決
 諮問郡第十二號 町村傳染病豫防費補助歩合規定ノ件……………答申議決
 諮問郡第十三號 埼玉脇往還道路敷中交換ノ件……………答申議決
 議決摘要

第 郡 第十一號議案部 明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正

一金貳千四百七拾參圓七拾八錢貳厘 町村土木補助費

千住停車場開設補助費及花畑村以樋補助費

(修正)金五百九拾五圓壹錢貳厘

(修正理由) 停車場道開設ニ對シ補助シタル先例ナク且二十九年來今日迄遷延シタルヨリ推
 セハ故ラニ臨時會ニ決議ヲ求ムルノ必要ナキモノト認メ之ヲ削除スルニ由ル(議員大久保善左

衛門動議

第 郡 第十二號議案部 地方稅支辨ニ橋梁編入ノ件……………可決

一南葛飾郡行徳街道ニ架ス平井橋木橋

一南多摩郡八王子町ヨリ西多摩郡五日市町ニ至ル秋川橋木橋

右地方稅支辨ニ編入セントス

第 郡 第十三號議案部 自明治三十一年度繼續郡部地方稅支出豫算……………廢棄
 至明治三十三年度繼續郡部地方稅支出豫算……………廢棄

一金壹萬貳千百拾八圓參拾八錢貳厘 土木費中道路橋梁費

青梅街道外二線路改修費

内

金四千六百四拾參圓六拾八錢五厘 明治三十一年度支出額

金五千五拾八圓五拾六錢七厘 明治三十二年支出額

金貳千四百拾六圓拾參錢 明治三十三年度支出額

(議決)廢棄

(廢棄理由) 本案豫算ハ曩ニ通常會ニ提出ノ處經費多端ノ折柄ニ付見合スヘシトシテ削除シタ

ルニ今復提出セラレタルモノナレハ前同一ノ理由ヲ以テ廢棄トス(常置委員會意見)

第十四號議案部

明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………可決

一金九百八圓參拾五錢

衛生及病院費

内

金九百八圓參拾五錢

傳染病豫防費

檢疫委員ニ要スル諸費一ヶ月分

第十五號議案部

明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正

一金參千貳百六拾貳圓七拾錢六厘

市町村傳染病豫防補助費

(修正)金貳千七百拾圓七拾四錢

内

金參千貳百六拾貳圓七拾錢六厘

町村傳染病豫防補助費

(修正)金貳千七百拾圓七拾四錢

(修正理由) 補助歩合規定ノ議決ニ伴ヒ増額ヲ要スルモ見積ヲ過當ト認メ(常置委員會意見)且傳

染病豫防法第二十一條及第二十三條二項ニ該當スルモノニ補助スルニ由ル(議員井上吉之助動議)

第十六號議案部

明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

一金壹萬七千五百六拾壹圓七拾壹錢貳厘

戶數 割

(修正)金壹萬貳千貳百參拾圓四拾七錢八厘

(總戶數 十萬四千五百三十四戶) 一戶ニ付拾六錢八厘

(修正理由) 支出ノ修正減額ニ伴フニ由ル(常置委員會意見)

(二) 戶ニ付拾壹錢七厘

内

金壹萬八百九拾九圓五拾錢四厘

(五) 郡戶數 六萬四千八百七十八戶

(修正)金七千五百九拾圓七拾貳錢六厘

金六千六百六拾貳圓貳拾錢八厘

(三) 多摩郡戶數 三萬九千六百五十六戶

(修正)金四千六百參拾九圓七拾五錢貳厘

一金六百九拾五圓拾七錢六厘

國庫補助金

(修正)金六百參圓拾八錢貳厘

(修正理由) 同上

合計金壹萬八千貳百五拾六圓八拾八錢八厘

(修正)金壹萬貳千八百參拾參圓六拾六錢

諮問郡第十一號 品川横濱間電氣鐵道布設ノ件……………答申議決

東京市麴町區三丁目十四番地雨宮敬次郎外四十七名ヨリ別紙ノ通電氣鐵道布設願差出候條左記ノ條件ヲ付セララルニ於テハ支障ナキ旨副申シ其筋へ進達セントス

右其會ノ意見ヲ問フ

一本鐵道ハ荏原郡品川町品川橋際ヨリ國道東海道通り同郡六鄉村六郷橋北詰間ニ布設セシムル事

一營業年限ハ營業開始許可ノ月ヨリ滿三十ケ年間タルヘキ事

一現在ノ道幅五間以上ニ及ハサル場所ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ擴築スルニアラサレハ布設セシメサル事

一軌道ノ幅員ハ内法四呎八吋半タルヘキ事

(三項省略)

一屈曲ノ半徑ハ三十六尺ヲ以テ最少限ト爲スヘキ事

(二項省略)

一特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ノ幅員ハ車體外左右各二尺以上ノ餘地ヲ存スヘキ事

(二項省略)

一速力ハ何レノ場合ト雖モ一時間八哩以内タルヘキ事

(二項省略)

一特許ヲ受ケタル者ハ工事竣功検査済マテ工費豫算額ノ二十分ノ一ニ當ル金額若ハ國債證書ヲ東京府知事ニ納入シ置クヘキ事

一特許ヲ受ケタル者ハ義務履行ノ擔保トシテ東京府知事ニ於テ適當ト認メタル連帶保證人二人以上ヲ定メ届出ヘキ事

(答申)條件第三ノ道幅五間ヲ七間ト改メ其他ハ諮問ノ通ヲ可トス

(修正理由)道幅狹隘ナレハ危險ノ虞アルニ由ル議員田中新造外一名意見

諮問郡第十二號 町村傳染病豫防費補助歩合規定ノ件……………答申議決

町村傳染病豫防費補助歩合左ノ通規定セントス

右其會ノ意見ヲ問フ

一傳染病豫防法第二十一條各項ノ費用ハ支出ニ伴フ收入ヲ控除シタル金額ニ對

シ左ノ區分ニ據リ補助ス

一町村稅總額ヨリ地價割制限額ヲ控除シタル現住一戸當負擔額金參圓迄ハ總金額ノ六分ノ一

一同一戸當負擔額金五圓迄ハ其參圓迄ニ對シテハ前項ノ步合其ノ餘ハ四分ノ

一

一同一戸當負擔額金五圓以上ニ及フトキハ其五圓迄ニ對シテハ前額ノ步合其

餘ハ全部

二傳染病豫防法第二十三條第二項ノ費用ハ其二分ノ一ヲ補助ス

(答申)第一項中第一ノ六分ノ一ヲ五分ノ一第二ノ四分ノ一ヲ三分ノ一第二項ヲ傳染病豫防法第二十三條第二項ノ費用モ前項同様ノ割合ヲ以テ補助スト修正スルヲ可トス

(修正理由) 第一項ノ修正ハ町村ノ負擔ニ對シ補助額寡少ナリト認メ(常置委員會意見)第二項ノ修正ハ衛生組合ニ對シ特ニ多分ノ補助ヲ爲スニ及ハストスルニ由ル(議員井上吉之助意見)

諮問郡第十三號 埼玉脇往還道路敷中交換ノ件……………答申議決

埼玉脇往還道路中別紙圖面ノ箇所屈曲甚タシク通行上不便不尠ヲ以テ改築ヲ要スヘキ見込ノ處是レカ敷地ニ當ル民有地一反六畝十歩ト廢道敷一反七畝二十歩ト交換ノ儀各地主ヨリ出願セリ依テ調査ヲ爲シタルニ別ニ支障ノ廉無之ニ付其願意ヲ聽許セントス

右其會ノ意見ヲ問フ

通常府會

本會は、明治三十一年十一月二十八日午後四時三十分を以て開會し、會議八日間に涉つて、十二月二十七日午後五時十五分議事終了散會した。

開會に當つて、知事男爵千家尊福は、次の開會の辭を述べた。

〔諸君 明治三十二年度地方稅收支豫算等議定ノ爲メ本日ヲ以テ第二十一回通常府會並市部會郡部會ヲ開ク

三十二年度ノ地方稅支出豫算ハ之カ編製ニ際シ精々節約ヲ加ヘシカ猶前年度ニ比シ市郡聯帶ニ於テ四萬七千圓餘市部ニ於テ四萬四千圓餘郡部ニ於テ四萬八千圓餘ノ増額ナリ其

ノ重ナル費途ハ市郡聯帶ニ於テ土木費、教育費、救育費、勸業費ニシテ市部ニ於テハ警察費、郡部ニ於テハ土木費、町村土木補助費及地方税取扱費等ナリトス

以上増加ノ理由ハ今秋兩度ノ水害ニ鑑ミ差置キ難シト認ムル土木工事師範學校ノ建築本年當府カ主催ノ順次ニ當リタル一府九縣聯合共進會ノ開設水道消火栓竣成ニ伴フ消防機關ノ設備及町村ニ於テ實施ヲ要スル土木費ノ補助等ヲ主トシ何レモ法令ノ結果又ハ實際ノ必要ニ應スルモノナリトス

終ニ臨ミ猶一言セント欲スルハ今秋水害ノ復舊土木費年度初ヨリノ米麥代價ノ昂騰ヨリ生シタル監獄費ノ不足師範學校ノ建築費消火栓竣成部分ニ設備スヘキ消防機關ニ要スル警察費等ノ爲メニ市郡聯帶ニ於テ貳拾五萬圓餘市部ニ於テ壹萬七千圓餘郡部ニ於テ壹萬貳千圓餘ヲ三十一年度豫算ニ追加ノ議案ヲ提出シ置キタリ、諸君宜シク精覈審議ノ上適當ノ議決アラシコトヲ望ム(明治三十一年府會議事録)

書記官坂本鈺之助、參事官田所美治、屬金田吉郎、同丸山良香、同寺田寛之丞、同高橋磯八郎、同高田歳之助、同加來倉太、同佐々木基、技手三浦吉勝、屬町田安盈、同鷺見金三郎、同栗屋千輔、同池上幸操、同富田佐右衛門、同藤田菊三郎、同丹羽勉は議事説明委員として、警視川路利恭、警視屬長澤誠之助、消防士勝山義雅、警視屬杉村正謙、警視廳監獄書記中村襄、技手大富達丙、警部森英雄、監獄書記加藤勝次郎、屬中川喜一郎は議事説明囑託委員として、孰れも會議に參與した。

芳野議長は例に依つて議員の異動を報告し、直ちに議事に入つた。議事の狀況は概して事務的に細密多岐に涉つた感がある。勿論之は議案の數も増加し、其の内容も亦複雑になつた故で例へば議場に於ける質問の要旨が細微の事項に觸れたり、土木費の原案金額貳拾六萬餘圓に對し、實地踏査の上不急の箇所を見合せて金拾參萬餘圓の半額に削減したり、其の他議案に對して附帶決議、獨立の決議、建議案等が非常に増加したが如き、孰れも事務的傾向のある事項を多分に占めて居る。これは從來に比して、稍々著しく變つた現象である。

建議案としては、多摩川外二川治水堤防費、國庫支辨を望むの建議、師範學校敷地變更に關する建議の二件で、前者は最近數年間毎年提出したものであり、後者は觀察の仕方によつては、市郡間の師範學校爭奪問題とも見られる。兎に角この建議が動機になつて、結局現在の青山に師範學校が設置さるゝに至つたのである。

議案に對する附帶決議としては、中學校敷地續きの官有地を學校運動場に借用方盡力要望の決議で、これは決議の趣旨が實現して、日比谷の第一中學校運動場となつた。次に監獄教誨師の缺員に對する補充を、佛教側から採用を望むとの決議であつて、前典獄が佛教側の教誨師を強制的に罷免して、後任に基督教側から採用

したが、囚人の多数は佛教信者であるから、佛教の教誨師を可とするとの趣旨であつた。

又獨立の決議としては、荷積牛馬車構造制限規則中改造のものに二ヶ年の期限を定むることを理事者に要求する決議で、これは實際上適切な決議であつて、理事者も之を容れて期限を付することゝなつた。次は、近時集會の解散を命ぜらるゝ事例が多く、しかも公平を缺く嫌があるから、將來は公平に措置せらるゝやう、警視廳當局に希望する決議で、この動機は紅葉館又は錦輝館に於ける集會の解散事件に端を發したもののやうで、要するに當時に於ける政界多事の反影に外ならぬ。第三は通常府會招集期を十一月中旬に改むることを望む決議で、歳末匆忙の際にかけての開會を迷惑とするに因るもので、此後に於ても屢々同様の希望があり、理事者も固より同感であるが、豫算編成等の關係から希望に副へぬこともあつたのである。

右の外、議員名倉甚右衛門の逝去を哀悼して、其の功勞を議事録に特筆することを決議した。其の決議文は次の通である(議員高松喜六發議)。

故四十九番議員名倉甚右衛門君ハ明治十一年南豊島郡ヨリ舉ケラレテ府會議

員トナリ爾來二十有餘年其間屢々議員ニ再選シ又常置委員ノ重任ニ膺リ府政ニ盡力セラレタルノ功勞尠シトセス今ヤ溢逝ノ報ニ接ス曷ソ痛悼ニ堪ヘン茲ニ東京府會ハ滿場一致ノ決議ニ依リ君カ多年ノ功勞ヲ録シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス

明治三十一年十二月二十七日 東京府會

議案 附建議案、決議案

- 府第一號議案 明治三十二年度府會ト市郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費負擔割合……………修正
- 府第二號議案 明治三十二年度地方稅支出豫算……………修正
- 府第三號議案 明治三十二年度地方稅收入豫算……………修正
- 府第四號議案 府會議員並常置委員旅費規則改正ノ件……………可決
- 府第五號議案 明治三十二年度小學校教員恩給基金收入豫算……………可決
- 府第六號議案 明治三十二年度小學校教員恩給金收支豫算……………可決
- 府第十二號議案 自明治三十一年度至明治三十三年度 繼續地方稅教育費支出豫算……………撤回
- 府第十三號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………修正

府第十四號議案 明治三十一年度地方稅收入追加豫算……………可決
 府第十五號議案 明治三十一年度地方稅支出更正豫算……………可決
 明治三十年度地方稅收支精算報告……………承認
 多摩川外二川治水堤防費國庫支辨ヲ望ムノ建議……………可決
 師範學校敷地變更ニ關スル建議……………可決
 荷積牛馬車構造制限規則中改造ノ分ニ二ケ年ノ期限ヲ付センコトヲ要望スル決議……………可決
 集會取締ニ關スル決議……………可決
 通常府會招集期日ニ關スル決議……………可決

議決摘要

府第一號議案 明治三十二年度府會ト市郡部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費負擔割合……………修正

第三條 市郡聯帶シタル經費ハ左ノ割合ヲ以テ市郡部ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

警察費中巡查教習所費 市 八分二厘一毛 (巡查配置數ヲ準トス)
 郡 一分七厘九毛
 警察廳舍建築修繕費中巡查教習所費 市 八分二厘九毛 (同上)
 郡 一分七厘九毛

一府九縣聯合共進會費

〔豫備費〕

市 四分一厘八毛 (半額ハ出品見込數)
 郡 七分八厘 (半額ハ戶數ヲ準トス)
 市 七分六厘 (前年度聯帶支出)
 郡 四分四厘 (豫算額ヲ準トス) (修正削除)

(修正理由) 聯帶ニ豫備費ヲ設クル必要ナキニ由ル(常置委員會意見)

府第二號議案 明治三十二年度地方稅支出豫算……………修正

一金四萬五千四百拾圓拾七錢九厘

警察費

内

金八千四百四拾八圓

俸給

留置所巡查十人月給平均拾貳圓
 巡查教習所巡查二人月給平均拾貳圓
 教習生八十人月給平均七圓

金五千七百拾九圓八拾錢四厘

雜給

留置所教習關係ノ巡查給助費、同宿料、慰勞金、雇員給備給被服帶具費等

金千貳百四拾貳圓參拾七錢五厘

廳費

金參萬圓

警察機密費

一金百圓

警察廳舍建築修繕費

一金貳拾六萬四千八百九拾四圓七拾貳錢四厘

土木費

(修正)金拾參萬六千五百八拾五圓五拾五錢壹厘

内

金貳千八百九拾八圓九拾貳錢

橋 梁 費

旅所橋架換費

金貳拾六萬千九百九拾五圓八拾錢四厘

治 水 堤 防 費

堤防修繕費貳拾四萬七千七百七拾四圓九拾錢四厘、雜費壹萬四千八百貳拾圓

九拾錢

(修正)金拾參萬參千六百八拾六圓六拾參錢壹厘

(修正理由) 實地踏查ノ結果施行ヲ見合ハスヘキモノヲ削除シテ堤防修繕費ニ於テ拾壹

萬七千餘圓雜費ニ於テ壹萬餘圓ヲ削減スルニ由ル(常置委員會意見)

一金貳千參百七拾八圓四拾八錢六厘

府 會 議 諸 費

(修正)金貳千五百拾五圓參拾八錢六厘

(修正理由) 賄費ニ於テ一賄ノ金額ヲ増シ(常置委員會意見)實地調査ノ費用トシテ五拾圓ヲ

置クニ由ル(調査委員意見)

(附記) 府會議諸費ニ對シ五名ノ調査委員ヲ設置セリ其ノ理由ハ從來市郡各部ニ

計上セル諸費中聯帶ニ移シタルモノアルト實地踏查ノ費用支辨方法等調査ヲ要スル事項アリシニ由ル

一金五百參拾四圓五拾錢

衛 生 及 病 院 費

(修正)金四拾八圓

内

金六拾四圓五拾錢

地 方 衛 生 會 費

(修正)金四拾八圓 (常置委員會意見)

金四百七拾圓

衛 生 吏 員 費

(修正)削除

(修正理由) 特ニ衛生機關ヲ設クルノ必要ナントスルニ由ル(常置委員會意見)

一金六萬五百四拾貳圓貳拾參錢

教 育 費

(修正)金五萬九千四百五拾六圓五拾四錢

内

金參萬六千七百貳拾四圓拾九錢

師 範 學 校 費

(修正)金參萬五千六百七拾四圓五拾錢 (常置委員會意見)

金貳萬貳千七百八拾八圓八拾五錢

尋常中學校費

(附帶決議)尋常中學校敷地ノ地續キニ約四百坪ノ官有明地アルニ付之ヲ中學校運動場ノ取擴ニ充ツル於貸與方理事者ニ於テ盡力アランコトヲ希望ス(議員小島官吾發議)

金九百七拾七圓貳拾九錢

小學校教員檢定費

(修正)金九百四拾壹圓貳拾九錢 (常置委員會意見)

金五拾壹圓九拾錢

小學校教員恩給審查費

一金五萬四千九百九拾參圓參拾六錢

救育費

(修正)金五萬參千七百拾參圓六錢

內

金五萬四千九百七拾九圓貳拾八錢

巢鴨病院費

(修正)金五萬參千六百九拾八圓九拾八錢

(常置委員會意見)
議員大久保善左衛門動議)

金拾四圓八錢

處刑滿期釋放人救護費

一金千五百七拾五圓

諸達書及揭示諸費

一金壹萬四千七百四拾九圓拾參錢五厘

勸業費

(修正)金壹萬四千四拾九圓五拾參錢五厘

內

金參千四百九拾四圓拾四錢

蠶種檢査費

(修正)金參千八百八拾七圓四錢 (常置委員會意見)

金千貳百貳拾六圓六拾五錢

地方森林會費

金參百四拾九圓四拾錢

貝類養殖場費

金九千六百七拾八圓九拾四錢五厘

一府九縣聯合共進會費

(修正)金九千貳百八拾六圓四拾四錢五厘 (常置委員會意見)

一金貳千參百拾圓

地方稅取扱費

(修正)金貳千拾圓 (常置委員會意見)

一金參百圓

府廳舍建築修繕費

一金參拾壹萬四千六百六拾四圓拾錢

監獄費

(修正)金參拾萬貳千九百八圓五拾八錢壹厘

內

金七萬參千貳百七拾貳圓

俸

給

監獄醫十四人月給平均貳拾五圓、看守四百六十八人月給平均拾貳圓、教習生二十人月給平均七圓

金四萬參千拾四圓七拾壹錢參厘

雜給

(修正)金四萬參千九拾貳圓七拾九錢參厘 (常置委員會意見)

金壹萬八千六百七拾六圓五拾錢 廳費

(修正)金壹萬八千百貳拾六圓五拾錢 (常置委員會意見)

金拾六萬六千九百五拾四圓八拾八錢七厘 在監人諸費

(修正)金拾五萬五千六百七拾壹圓貳拾八錢八厘 (常置委員會意見)

金壹萬貳千六百六圓 給與錢

金百四拾圓 慈惠費

(附帶決議) 教誨師ハ耶蘇教ヨリ採用スルコトヲ廢シ從來ノ如ク佛教側ヨリ採用セ
ンコトヲ希望ス(議員西澤善七發議)

一金七千四百六拾六圓八拾貳錢七厘 監獄建築修繕費

(修正)金五千五百五拾四圓參拾八錢 (常置委員會意見)

一金五千圓 豫備費

(修正)削除

(修正理由) 聯帶經濟ニ之ヲ設クル必要ナキニ由ル(常置委員會意見)

總計金七拾七萬四千九百拾八圓五拾四錢壹厘

(修正)金六拾貳萬參千八百貳拾六圓貳拾壹錢貳厘

内

金七拾五萬五千參百參拾八圓貳拾貳錢七厘 地方稅

(修正)金六拾萬四千參百參拾八圓貳錢八厘 市部負擔

金五拾參萬七千七百拾七圓拾七錢參厘 市部負擔

(修正)金四拾五萬參千參百貳拾八圓貳拾五錢九厘 郡部負擔

内 金貳拾壹萬七千六百貳拾壹圓五錢四厘 郡部負擔

(修正)金拾五萬千九圓七拾六錢九厘

金壹萬八千貳百四圓七錢貳厘 國庫下渡金

金千四拾八圓貳拾四錢貳厘 國庫補助金

(修正)金九百五拾六圓拾壹錢貳厘

金參百貳拾八圓 集監ニ入ルヘキ
囚徒費國庫下渡金

府第三號議案 明治三十二年度地方稅收入豫算……………修正

一金拾四萬九千參百五圓四拾八錢八厘 雜 收 入

(修正)金拾五萬千參百四拾壹圓九拾四錢八厘 國 庫 下 渡 金

一金壹萬八千貳百四圓七錢貳厘 國 庫 補 助 金

一金千四拾八圓貳拾四錢貳厘

(修正)金九百五拾六圓拾壹錢貳厘

一金參百貳拾八圓

囚集 徒治 費監 國庫 下入ルヘキ 渡金

總計金拾六萬八千八百八拾五圓八拾錢貳厘

(修正)金拾七萬八百參拾圓拾參錢貳厘

金拾四萬參千九拾八圓七拾錢壹厘 市 部 收 入

內 (修正)金拾四萬四千八百貳拾四圓七拾八錢五厘

金貳萬五千七百八拾七圓拾錢壹厘 郡 部 收 入

(修正)金貳萬六千五圓參拾四錢七厘

府第四號議案 府會議員並常置委員旅費規則改正ノ件……………可 決

府會議員並常置委員旅費規則

(第一條乃至第六條省略)

第七條 本則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

(別表)

五	汽 車 賃 ニ一 付哩	車 馬 賃 ニ一 付里	辨 當 料 ニ一 付日	宿 泊 料 ニ一 付夜
錢	拾	五	錢	貳
圓			拾	圓

府第五號議案 明治三十二年度小學校教員恩給基金收入豫

算……………可 決

一金參千九百參拾壹圓九拾五錢八厘 小學校教員恩給基金

內

金千九百六拾五圓九拾七錢九厘 市町村立小學校教員納金

金千九百六拾五圓九拾七錢九厘 市 町 村 納 金

府第六號議案 明治三十二年度小學校教員恩給金收支豫算……可決

收入

一金貳千參百五拾六圓七拾八錢 小學校教員恩給金

内

金千貳百九拾七圓五拾錢 小學校教員恩給基金利子

金千五拾九圓貳拾八錢 國庫給與金

支出

一金貳千參百五拾圓 小學校教員恩給金

内

金七百貳拾圓 退隱料

金百六拾圓 扶助料

金參百五拾圓 扶助料

金千圓 第八條給與金

金百貳拾圓 第十一條二項給與金

府第十二號議案 自明治三十一年度繼續地方稅教育費支出豫算……撤回

一金貳拾貳萬圓六拾貳錢 師範學校費中建築費

内

金八萬九千九百拾四圓四拾九錢 明治三十一年度支出額

金六萬參千九百九拾貳圓六錢 明治三十二年度支出額

金六萬六千八百九拾四圓七錢 明治三十三年度支出額

(撤回)

(撤回理由) 府知事ヨリ撤回ノ達アリシモ表面其ノ理由ヲ明示セス併シ議員ノ質問ニ對スル理事者ノ答辯ニ依レハ重要問題ナルニ會期既ニ切迫セルト先日建議學校敷地ニ關シノ次第モアリシニ由ル

府第十三號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……修正

一金拾壹萬九千參百拾五圓壹厘 土木費

(修正) 金拾七萬九千五百拾五圓參拾壹錢

内

金拾壹萬九千參百拾五圓壹厘

治水堤防費

水害復舊工事費

(修正)金拾七萬九千五百拾五圓參拾壹錢

(修正理由) 將來ノ爲メ必要ヲ認ムル分ハ各川ニ涉リ工事費ヲ増シテ工事ノ完全ヲ期シタルト通常豫算中ヨリ水害復舊費ヲ本項ニ移シタルモノアルトニ由ル(常置委員會意見)

一金四百貳拾貳圓

府會議諸費

需用費及調査費

一金九千九百四拾七圓貳拾六錢

教育費

(修正)金八千四百七拾七圓五錢

内

金九千九百四拾七圓貳拾六錢

尋常中學校費

生徒監督員詰所其他建設費、備品費、開校式費等

(修正)金八千四百七拾七圓五錢 (常置委員會意見)

一金參萬九千九百七拾八圓八拾壹錢八厘

監獄費

(修正)金貳萬六千貳百六拾圓貳拾壹錢四厘

内

金貳萬六千八百參拾壹圓壹錢六厘

在監人諸費

物價騰貴ノ爲メ不足ヲ告クルニ由ル

(修正)金貳萬千百拾貳圓四拾壹錢貳厘

(修正理由) 米麥代ノ價格ヲ過當ト認メ減スルニ由ル(常置委員會意見)

金五千四百四拾七圓八拾錢貳厘

給與錢

工錢收入ノ多キニ由ル

合計金拾六萬千六百六拾參圓七錢九厘

(修正)金貳拾壹萬四千六百七拾四圓五拾七錢四厘

府第十四號議案 明治三十一年度地方稅收入追加豫算……………可決

一金壹萬四千六百五拾貳圓貳拾六錢貳厘

雜收入

内

金壹萬四千六百五拾貳圓貳拾六錢貳厘

監獄費雜入

工錢

一金參百圓

寄 附 金

合計金壹萬四千九百五拾貳圓貳拾六錢貳厘

府第十五號議案 明治三十一年度地方稅支出更正豫算……………可 決

既定豫算金貳萬五千四百七圓貳拾貳錢參厘

一金貳萬參百七圓貳拾貳錢參厘

府廳舍建築修繕費

(原案説明) 建築實費ノ減少シタルニ由ル

明治三十年度地方稅收支精算報告……………承 認

多摩川外二川治水堤防費國庫支辨ヲ望ムノ建議……………可 決

(建議の大要) 多摩川荒川江戸川の三川に要する治水堤防費を、國庫の支辨に移さるゝやう數年來建議したが、未だ其の實現を見ないのは、甚だ遺憾に堪えないから急速に詮議あるやう重ねて内務大臣に建議するので、案は多數を以て可決した
(議員谷岡慶治發議)。

師範學校敷地變更ニ關スル建議……………可 決

(建議の大要) 師範學校建設敷地の選定を府會から委任された常置委員會は、調査の結果豊多摩郡中野町を以て適當と決定した。然るに、選定の敷地は、地質地盤共に善良でなく、通行の要路に遊廓が介在し、火災の防禦に便宜悪しく、教員の住宅並に通學等に不便であり、飲料水質も亦不良である等幾多の缺點があつて、學校敷地として不適當と認めるから、理事者は他に適當の敷地を選定し、三十一年度中に敷地變更に關する議案を提出せられたいと、知事に建議するので、案は多數を以て可決した(議員大貫實發議)。

荷積牛馬車構造制限規則中改造ノ分ニ二ケ年ノ期限ヲ付セ

ンコトヲ要望スル決議……………可 決

(決議の大要) 十一月十四日を以て公布された、荷積牛馬車取締規則は、府會の建議に基くもので、之に因て車輪の幅員其他構造が一定され、延いて道路の損壞を減少することとなつて、洵に喜ぶべきことであるが、たゞ在來の車を改造するものに

對し、改造の期限を一定しないのは缺點と認めるから二ケ年以内に改造せしめる様、規則中に追加せられたいと當局に要望するので、案は多數を以て可決した(議員相澤喜兵衛發議)。

集會取締ニ關スル決議……………可決

(決議の概要) 近時集會の解散を命せられた事例が多く、しかも公平を缺く嫌があるから、將來は公平に措置せられんことを、警視廳當局に希望する決議案で、多數を以て可決した(議員松尾清次郎發議)。

通常府會招集期日ニ關スル決議……………可決

(決議の概要) 今後通常會(府會、市、郡部會)は、十一月中旬に招集せらるゝことを望むとの決議案で多數を以て可決した(議員大久保善左衛門發議)。

通常市部會

本會は、明治三十一年十一月二十八日午後五時十分を以て開議し、會議六日間に

涉つて十二月二十七日午後七時議事終了散會した。

議案

市第一號議案部	常置委員月手當改正ノ件……………	廢棄
市第二號議案部	明治三十二年市部地方稅支出豫算……………	修正
市第三號議案部	特別稅目設定ノ件……………	廢棄
市第四號議案部	明治三十二年市部營業稅雜種稅課目課額……………	修正
市第五號議案部	明治三十二年市部地方稅收入豫算……………	修正
市第六號議案部	明治三十二年市部備荒儲蓄金收入豫算……………	可決
市第七號議案部	明治三十二年市部學資金收入豫算……………	可決
市第八號議案部	明治三十二年市部恩賜金收入豫算……………	可決
市第九號議案部	明治三十二年市部地方稅支出追加豫算(府債費)……………	可決
市第十號議案部	明治三十二年市部地方稅收入追加豫算……………	可決
市第十二號議案部	明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………	修正
市第十三號議案部	明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………	修正
市第十四號議案部	巡查派出所建築寄附ノ件……………	可決

市第十五號議案部	起債及利息ノ定率及償還ノ方法……………	修正
市第十六號議案部	明治三十一年度市部地方稅支出更正豫算……………	可決
市第十七號議案部	明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算(府債費)……………	可決
市第十八號議案部	明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………	可決
	明治三十年度市部地方稅收支精算報告……………	承認

議決摘要

市第一號議案部 常置委員月手當改正ノ件……………廢棄

市部常置委員月手當ヲ明治三十二年度ヨリ金四拾圓ニ改ム

(議決)廢棄

(廢棄理由) 増額ノ必要ナキニ由ル(常置委員會意見)

市第二號議案部 明治三十二年度市部地方稅支出豫算……………修正

一金七拾九萬千九百四圓五拾壹錢七厘 警察 費

(修正)金七拾八萬六千參百七拾六圓九拾錢六厘

内

金參拾八萬千參百拾貳圓 俸 給

警察署諸費巡查二千四百三十三人月給平均拾貳圓請願巡查費巡查二百十五人月給平均拾貳圓

金貳拾六萬貳千參百貳拾貳圓九錢四厘 雜 給

警察署諸費拾七萬千六百六拾四圓貳拾八錢四厘(内、旅費、巡查給助資金、巡查宿料五萬八千參百九拾貳圓、雇員給貳萬四千貳百八拾八圓、傭給壹萬四千四百四拾七圓四拾錢、賞與、慰勞金、被服帶具費五萬貳千七百參拾壹圓四拾參錢四厘) 消防費七萬六千六百六拾貳圓九拾四錢(内、傭給六萬七千參百五拾參圓五拾錢、賞與、慰勞金、退職並死傷手當、被服費七千九百八拾四圓四拾四錢)請願巡查費壹萬四千四百九拾四圓八拾七錢

(修正)金貳拾六萬千七百貳拾六圓九錢四厘

(修正理由) 消防費傭給ニ於テ減スルニ由ル(常置委員會意見)

金拾四萬八千貳百七拾圓四拾貳錢參厘 廳 費

警察署所屬七萬九千七百參拾八圓五拾壹錢七厘、消防費所屬六萬四千四百

拾壹圓九拾五錢壹厘請願巡查費所屬四千百拾九圓九拾五錢五厘

(修正)金拾四萬參千參百參拾八圓八拾壹錢貳厘 (常置委員會意見)

一金貳萬參千五拾壹圓貳拾六錢參厘 警察廳舍建築修繕費

(修正)金壹萬貳千拾圓

(修正理由) 本郷警察署建築費ヲ修繕ニテ足レリトシテ削除シ其他建築及修繕費ニ於テ減スルニ由ル(常置委員會意見)

一金參千四百八拾九圓拾五錢 府會議諸費

(修正)金貳千六百四拾九圓拾五錢 (常置委員會意見)

一金貳千五百七拾五圓四拾貳錢 衛生及病院費

(修正)金貳千五百拾五圓四拾貳錢

内

金六拾七圓八拾錢 衛生費

金千五百八圓 檢徽費

(修正)金千四百四拾八圓 (常置委員會意見)

金九百九拾九圓六拾貳錢 傳染病豫防費

一金參百七拾五圓五拾錢 地方稅取扱費

(修正)金七拾五圓五拾錢

(修正理由) 犬ノ鑑札代ヲ削除スルニ由ル(常置委員會意見)

一金六百五拾七圓 衆議院議員選舉費

一金壹萬圓 市町村傳染病豫防補助費

一金五千圓 豫備費

(修正)金壹萬六百參拾四圓貳拾貳錢

總計金八拾參萬七千五拾貳圓八拾五錢

(修正)金八拾貳萬四千九百拾八圓拾九錢六厘

内

金四拾七萬九千四百九拾貳圓參拾七錢參厘 地方稅

(修正)金四拾七萬參千九百八拾五圓貳拾六錢九厘

金參拾萬六千五百五拾貳圓參拾八錢貳厘 國庫下渡金

(修正)金貳拾九萬九千五百貳拾四圓八拾參錢貳厘

金千八百參拾參圓貳拾七錢 國庫補助金

金四萬九千五百七拾四圓八拾貳錢五厘

請願巡查費

市部營業稅雜種稅課目課額中雜種稅西洋形船稅ノ次ニ左ノ特別稅目ヲ設ク
第三號議案部 特別稅目設定ノ件……………廢棄

一犬稅

(議決)廢棄

(廢棄理由) 取締法ノ制定アル迄見合スニ由ル(常置委員會意見)

市部營業稅雜種稅課目課額……………修正
第四號議案部 明治三十二年度市部營業稅雜種稅課目課額……………修正

一遊藝師匠 淨瑠璃、唱歌、舞蹈、音曲其他ノ遊藝ヲ指南スルモノ

(一) 等

〔月稅〕 金七拾五錢

月稅 金壹圓

二 等

同 金五拾錢

三 等

同 金拾錢〔ト修正〕

(修正理由) 等級ヲ付スルヲ適當トスルニ由ル(議員小栗常吉外一名動議)

一藝妓

藝妓

〔月稅〕 金四圓

月稅 金四圓

(一) 等

同 金參圓〔ト修正〕

二 等

同 〔金壹圓五拾錢〕〔ト修正〕

小藝妓

同

(修正理由) 實狀ニ鑑ミ斯ク改ムルヲ適當トスルニ由ル(常置委員會意見)

一演劇

一 等

平土間一坪以上ノ樹ト修正(參圓以上ノモノ)

興行中建坪一坪ニ付

月稅 金拾錢

二 等

同壹圓以上參圓未滿ノモノ

同

同 金五錢

三 等

同壹圓未滿ノモノ

同

同 金壹錢貳厘

(修正理由) 普通ノ稱呼ニ隨フニ由ル(議員秦源祐動議)

一人寄席

個數一個ニ付

年稅 〔金貳錢五厘〕〔ト修正〕

一車

自用馬車

二匹立以上

年稅 〔金貳拾圓八圓〕〔ト修正〕

同

鐵道馬車

一匹立

同 〔金拾參圓貳圓〕〔ト修正〕

同

二匹立以上

同 〔金貳拾圓五圓〕〔ト修正〕

第四章 府會の行動 明治三十一年の府會

營業人力車

同

二人乘 乘臺ノ横巾内法
二尺以上ノモノ

〔年税金壹圓五拾錢〕
〔税金四圓〕ト修正

一人乘 同二尺未
滿ノモノ

〔年税金壹圓〕
〔税金貳圓〕ト修正

(修正理由) 税額ヲ増スハ他税トノ權衡ヲ採リ營業人力車ヲ改メタルハ從來ト同シクス
ルヲ可トスルニ由ル常置委員會意見

獵犬

其他ノ畜犬

年税 金參圓

同 金壹圓(修正削除)

(修正理由) 畜犬取締法ノ制定アル迄見合ハスニ由ル常置委員會意見

〔年税ヲ賦課スルモノ云々ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ(修正追加)〕

營業人力車税ハ新調修繕又ハ無税車ノ有税車トナリタル爲メ檢印ヲ受クルトキ
及市内ニ轉入ノトキ一時ニ之ヲ賦課スルモノトス

(修正理由) 營業人力車ノ賦課方法ヲ改ムルニ由ル常置委員會意見

市第五號議案部

明治三十二年度市部地方稅收入豫算……………修正

一金八萬貳千拾七圓九拾錢

地租 壹圓ニ付參拾錢割

(修正) 金九萬千百參拾壹圓

(地租ノ三分ノ一)

一金九萬八千五百五拾四圓八拾貳錢

營業稅

内

金五萬四千貳百參拾九圓八拾六錢

商業稅

金四萬四千參百拾四圓九拾六錢

工業稅

一金參拾參萬貳千六百六拾四圓八拾貳錢貳厘

雜種稅

(修正) 金貳拾六萬六千八百九拾參圓拾錢七厘

一金九萬七千五百貳拾五圓

營業稅附加稅

(修正) 金拾貳萬六千七百八拾貳圓五拾錢

(國稅額ノ十分ノ一)

(修正理由) 支出ノ増加ニ鑑ミ増課スルニ由ル常置委員會意見

(國稅額ノ百分ノ十三)

一金貳拾貳萬五千五百九圓參拾錢五厘

家屋稅

(修正) 金拾四萬五千貳拾九圓七拾五錢壹厘

(個數一個ニ付貳錢貳毛)

一金拾參萬八千四百七拾五圓貳拾參錢貳厘

雜收

(修正) 金拾壹萬九千貳百四拾六圓七拾壹錢

内

(警察費雜入外二項省略)

金五萬四百參圓六拾九錢

賦 金

貸座敷四萬八千五百九拾五圓九拾五錢引手茶屋千八百七圓七拾四錢

(修正)金六萬六千七百五拾貳圓九拾八錢五厘

(修正理由) 諸稅トノ權衡上貸座敷及引手茶屋賦金ヲ增徴スルニ由ル(常置委員會意見 議員内山平三郎動議)

一金參拾萬六千五百五拾貳圓參拾八錢貳厘 國庫下渡金

(修正)金貳拾九萬九千五百貳拾四圓八拾參錢貳厘

一金千八百參拾參圓貳拾七錢 國庫補助金

總計金百貳拾八萬貳千七百參拾貳圓七拾參錢壹厘

(修正)金百拾四萬九千九拾五圓九拾九錢

市部 第六號議案 明治三十二年度市部備荒儲蓄金收入豫算……………可決

一金壹萬貳千貳百六拾圓貳拾五錢 備荒儲蓄金

內

金壹萬貳千貳百六拾圓貳拾五錢 國債證書及預金利子

市部 第七號議案 明治三十二年度市部學資金收入豫算……………可決

一金貳百七圓四拾五錢八厘

內

學 資 金

金四拾八圓五拾錢八厘 預ケ金利子

金百參拾參圓九拾五錢 貸付金利子

金貳拾五圓 國債證書利子

市部 第八號議案 明治三十二年度市部恩賜金收入豫算……………可決

一金九百五拾壹圓貳拾五錢 恩賜金

內

金九百五拾壹圓貳拾五錢 公債證書利子

市部 第九號議案 明治三十二年度市部地方稅支出追加豫算……………可決

一金五萬千貳百九拾七圓六拾八錢九厘 府債費

內

金四萬五千六百九拾九圓五拾錢
金五千五百九拾八圓拾八錢九厘

元 金 償 還
借 入 金 利 子

(原案説明) 市部第十五號議案ニ伴フニ由ル

市 第十號議案部

明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………可 決

(註) 市部第九號議案の支出に對する收入である。

一金五萬千參百五拾參圓六拾錢四厘

家 屋 稅
(個數一個ニ付四厘六毛)

市 第十二號議案部

明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………修 正

一金壹萬五千六百參拾圓四拾五錢六厘

警 察 費

水道消火栓實施ニ從ヒ消防第一第四兩分署ニ駆走馬車設備ニ要スル諸費

(修正)金壹萬四千八百九拾壹圓四拾五錢六厘 (常置委員會意見)

一金千九百五拾九圓七拾貳錢

警察廳舎建築修繕費

(修正)金千八百七拾七圓參拾五錢 (常置委員會意見)

合計金壹萬七千五百九拾圓拾七錢六厘

(修正)金壹萬六千七百六拾八圓八拾錢六厘

市 第十三號議案部

明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………修 正

一金五萬千七百七拾四圓四拾貳錢

地 租 割

(修正)削除

(修正理由) 追加徵收ハ困難ナルヲ以テ借入金ヲ爲サントスルニ由ル(常置委員會意見)

一金參萬參千四百九拾壹圓四拾八錢壹厘

家 屋 稅

(修正)削除

(修正理由) 前ニ同シ(常置委員會意見)

一金六萬參千五百六拾六圓六拾七錢

雜 收 入

市部地方事業基金收入

(修正)削除

(修正理由) 借入金ヲ以テ之ニ代ユルニ由ル(常置委員會意見)

一金七千參拾六圓七錢

國 庫 下 渡 金

(修正)金六千七百七圓五拾貳錢貳厘

合計金拾五萬五千貳百六拾八圓六拾四錢壹厘
(修正)金六千七百七圓五拾貳錢貳厘

市部第十四號議案 巡查派出所建築寄附ノ件……………可 決

一 木造瓦葺平家 一 棟

此建坪四坪

右有志惣代下谷區上野櫻木町榎本鐵太郎外二名ヨリ寄附出願ニ付受領セントス

市部第十五號議案 起債及利息ノ定率並償還ノ方法……………修正

第一條 明治三十一年度臨時土木費ニ要スル市部地方稅九萬千參百九拾九圓ノ支出ニ充ツルタメ市部備荒儲蓄金又ハ銀行其他(修正追加)ヨリ七萬七千參百九拾九圓銀行其他ヨリ壹萬四千圓ヲ其(修正削除)須要ニ應シ借入ルルモノトス但市部備荒儲蓄金ヨリ借入ルトキハ金七萬七千參百九拾九圓ヲ超過セス(修正追加)

(修正理由) 備荒儲蓄金ヨリ制限ニ達スルマテヲ借入レントスルニ由ル(常置委員會意見)

第二條 借入金ノ利息ハ年七分トシ借入ノ月ヨリ償還ノ月迄月割ヲ以テ毎年三月及九月ニ仕拂フモノトス

第三條 借入金ハ明治三十二年度及明治三十三年度ニ於テ毎年三月及九月ニ總額ノ四分ノ一宛ヲ償還スルモノトス

市部第十六號議案 明治三十一年度市部地方稅支出更正豫算……………可 決

既定豫算金七拾參萬九千七百六拾五圓參拾六錢七厘
一金七拾貳萬七千七百六拾五圓參拾六錢七厘 警 察 費
(原案説明) 巡查ノ缺員アルニ由ル

市部第十七號議案 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可 決
(註) 市部第十五號議案に伴ふものである。

一金千六拾六圓參拾貳錢貳厘 府 債 費
借入金利子

市第十八號議案部 明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………可決

一金壹萬拾貳圓參拾貳錢參厘

營業稅

內

金五千五百拾貳圓參拾貳錢參厘

商業稅

金四千五百圓

工業稅

一金八千四百圓

雜種稅

一金九萬千參百九拾九圓

借入金

合計金拾萬九千八百拾壹圓參拾貳錢參厘

明治三十年度市部地方稅收支精算報告……………承認

通常郡部會

本會は、明治三十一年十一月二十九日午前十一時を以て開議し、會議八日間に涉つて、十二月二十七日午後三時議事終了散會した。

この通常郡部會は、市部會に比して、議案の外に決議事項等も多く、従つて各種委員の選定等もあり、議事の狀況は稍や多端であつた。

其の内特筆する事項を擧ぐれば、東京市區改正委員中に郡部選出の議員を加へらるゝやう内務大臣に建議すること、これは前年二回に互つて建議したが未だ何等實現を見ない爲め、今回更に建議することになり、しかも今回は單に建議のみに止めず、五名の陳情委員を擧げて、當局に陳情し、目的の達成に努力することゝなつた。次は從來五郡と三多摩郡とが、戸數割の賦課方法を異にしたものを、統一する爲め、今回郡部第五號議案として、郡部戸數割賦課方法が提出になつたことである。然るに常置委員會では、五郡と三多摩郡とは、元來經濟狀態其の他諸般の事情を異にするが爲めに、賦課方法を異にし、多年何等の支障なく實行して來たが、今俄かに統一するときは、負擔上にも激變を來たし、民間經濟の狀態を混亂に陥らしむる虞があるとの理由で、原案を否決することに決した。本會議に於ては、重要問題であるから更に、五名の調査委員を擧げて、附託調査せしめた。調査委員は審議の結果、常置委員會の意見と同様、即ち原案を否決することに決して、之を本會に報告したので、原案は否決となつたことである。

議案 附諮問案、建議案

第一號 案部	明治三十二年度郡部地方稅支出豫算……………	修正
第二號 案部	自明治三十二年年度繼續郡部地方稅土木費支出豫算……………	修正
第三號 案部	明治三十二年度郡部營業稅雜種稅課目課額……………	修正
第四號 案部	明治三十二年度郡部地方稅收入豫算……………	修正
第五號 案部	郡部地方稅中戶數割賦課方法……………	否決
第六號 案部	明治三十二年度郡部備荒儲蓄金收入豫算……………	可決
第七號 案部	明治三十二年度郡部學資金收入豫算……………	修正
第八號 案部	明治三十二年度郡部衛生資金收入豫算……………	可決
第九號 案部	明治三十二年度郡部公共財產所屬教育費收支豫算……………	可決
第十號 案部	明治三十二年度郡部恩賜金收入豫算……………	可決
第十一號 案部	起債及利息ノ定率並償還ノ方法……………	廢棄
第十二號 案部	明治三十二年度郡部地方稅支出追加豫算……………	可決
第十三號 案部	明治三十二年度郡部地方稅收入追加豫算……………	可決
第十七號 案部	特別費目設置ノ件……………	可決

議決摘要

第一號 案部	明治三十二年度郡部地方稅支出豫算……………	修正
第二號 案部	自明治三十二年年度繼續郡部地方稅土木費支出豫算……………	修正
第三號 案部	明治三十二年度郡部營業稅雜種稅課目課額……………	修正
第四號 案部	明治三十二年度郡部地方稅收入豫算……………	修正
第五號 案部	郡部地方稅中戶數割賦課方法……………	否決
第六號 案部	明治三十二年度郡部備荒儲蓄金收入豫算……………	可決
第七號 案部	明治三十二年度郡部學資金收入豫算……………	修正
第八號 案部	明治三十二年度郡部衛生資金收入豫算……………	可決
第九號 案部	明治三十二年度郡部公共財產所屬教育費收支豫算……………	可決
第十號 案部	明治三十二年度郡部恩賜金收入豫算……………	可決
第十一號 案部	起債及利息ノ定率並償還ノ方法……………	廢棄
第十二號 案部	明治三十二年度郡部地方稅支出追加豫算……………	可決
第十三號 案部	明治三十二年度郡部地方稅收入追加豫算……………	可決
第十七號 案部	特別費目設置ノ件……………	可決
第十八號 案部	明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………	修正
第十九號 案部	明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………	修正
第二十號 案部	明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………	可決
第二十一號 案部	明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………	可決
諮問郡第一號	地方稅支辨及補助道へ編入及變更ノ件……………	答申決議
	明治三十年度郡部地方稅收支精算報告……………	承認
	市區改正委員ニ郡部會議員ヲ加フル建議……………	可決
	多摩川神田兩上水路橋梁費負擔ニ關スル建議……………	可決
	郡部ニ於ケル郵便物集配度數増加ニ關スル建議……………	可決

一金拾四萬六千七拾四圓參拾壹錢四厘

警察費

金八萬九百貳拾八圓

俸給

警察署諸費巡查五百二十九人月給平均拾貳圓、請願巡查費巡查三十三人月給平均拾貳圓

金四萬六千五百參拾貳圓參拾七錢

雜給

警察署諸費四萬四千五百六拾四圓九拾七錢六厘、內、旅費、巡查給助資金、巡查宿料八千五百六拾九圓八拾錢、雇員給壹萬四百貳拾八圓、傭給四千七百五拾六圓參拾錢、賞與、慰勞金、被服帶具費壹萬四千四百九拾貳圓六拾貳錢六厘、請願巡查費千九百六拾七圓參拾九錢四厘

金壹萬八千六百拾參圓九拾四錢四厘

廳費

警察署所屬壹萬七千九百八拾壹圓五拾六錢四厘、請願巡查費所屬六百參拾貳圓參拾八錢

一金六百七拾貳圓

警察廳舍建築修繕費

(修正)金六百六拾四圓五拾貳錢 (常置委員會意見)

一金拾七萬貳千九百五拾壹圓六拾九錢四厘

土木費

(修正)金拾四萬千一百壹圓參拾八錢八厘

內

金拾四萬五千九百參拾參圓參拾九錢貳厘

道路橋梁費

道路改修費壹萬參千參百貳拾四圓八拾九錢八厘、道路修繕費九萬八千貳百七拾貳圓貳拾貳錢四厘、樹木植繼費參拾六圓四拾七錢五厘、橋梁架設費貳千九百六拾五圓八拾貳錢、橋梁架換費貳萬六千九百九拾圓五拾八錢五厘、橋梁修繕費貳千貳百五拾八圓貳拾五錢、雜費八千參百八拾五圓拾四錢

(修正)金拾壹萬八千八百七拾五圓六拾錢壹厘

(修正理由) 道路改修費中埼玉往還ヲ繼續事業ト爲スヲ可トシテ削リ此金壹萬餘圓ヲ減シ其他道路修繕費、橋梁架設費、同架換費、同修繕費等ニ於テ減スルニ由ル(常置委員會意見)

金貳萬七千拾八圓參拾錢貳厘

治水堤防費

堤防修繕費貳萬六千九百九拾七圓參拾錢貳厘、雜費貳拾壹圓

(修正)金貳萬貳千貳百貳拾五圓七拾八錢七厘

(修正理由) 各川筋ニ涉リ修繕箇所ヲ減スルニ由ル(常置委員會意見)

一金貳萬八千九百拾六圓七拾八錢六厘

町村土木補助費

(修正)金貳萬五千五百拾貳圓貳拾五錢貳厘 (常置委員會意見)

一金六千六百九拾參圓六拾五錢

府會議諸費

一金貳千七百拾九圓九拾四錢

衛生及病院費

(修正)金貳千五百五拾壹圓九拾四錢

内

金拾四圓參拾五錢

衛生費

金千七百九拾七圓貳拾四錢

檢徵費

(修正)金千六百貳拾九圓貳拾四錢

(常置委員會意見)

金九百八圓參拾五錢

傳染病豫防費

一金七百七拾參圓參拾八錢五厘

郡廳舍建築修繕費

(修正)金六百四圓參拾八錢五厘

(常置委員會意見)

一金參萬貳千貳拾壹圓拾壹錢

郡吏員給料旅費及廳中諸費

(修正)金貳萬九千八百參拾七圓拾壹錢

内

金壹萬八千五百六拾四圓

俸給

書記九十一人月給平均拾七圓

(修正)金壹萬六千參百八拾圓

(修正理由) 月額増加ヲ認メス前年度通トナスニ由ル(常置委員會意見)

金七千五百參拾五圓七拾壹錢

雜給

金五千九百貳拾壹圓四拾錢

廳費

一金千六百六拾壹圓九拾六錢

救育費

棄兒費、行旅死亡人費、行旅病者費、救難費

一金拾六圓

諸達書及揭示諸費

一金參千百參拾貳圓參拾錢

勸業費

(修正)金參千拾貳圓參拾錢

内

金參千百參拾貳圓參拾錢

試驗費

巡回教師一人、助手一人、書記一人、月給及試作人十六人手當其他旅費、種苗交

換費、講話會費、備品竝消耗品費、雜費等

(修正)金參千拾貳圓參拾錢

(修正理由) 巡回教師及助手ノ月給額ヲ減スルニ由ル(常置委員會意見)

一金千五百圓

勸業補助費

一金壹萬千參百五拾七圓參拾六錢

地方稅取扱費

(修正)金壹萬百圓八拾六錢 (常置委員會意見)

一金貳百貳拾七圓

衆議院議員選舉費

一金百拾圓

町村警備補助費

一金參千圓

市町村傳染病豫防補助費

一金參千五百圓

府債費

(修正)削除

(修正理由) 郡部第十一號議案起債ノ件必要ナキニ至リ否決ニ伴ヒ本項モ必要ナキニ至リ
シニ由ル

一金五千圓

豫備費

(修正)金六千拾壹圓九拾五錢九厘

繼續土木費三十二年度支出額

一金壹萬貳千八百拾五圓拾六錢貳厘

(修正)金壹萬八千七拾壹圓拾七錢貳厘

總計金四拾參萬參千四百拾貳圓六拾六錢壹厘

(修正)金參拾九萬六千七百五拾圓八拾壹錢

内

金參拾六萬七千六百參拾壹圓貳拾四錢五厘 地方稅

(修正)金參拾參萬千貳百四拾貳圓參拾八錢六厘 國庫下渡金

金五萬五千七百五拾七圓八拾壹錢六厘 國庫補助金

(修正)金五萬五千七百五拾四圓八拾貳錢四錢 國庫補助金

金六百五拾壹圓參拾九錢貳厘 請願巡查費

金七千參百五拾壹圓七拾七錢四厘 寄附金

金千七百五拾圓四拾參錢四厘

郡部第二號議案 自明治三十二年(至明治三十五年) 繼續郡部地方稅土木費支

出豫算.....修正

一金四萬六千五拾九圓九錢四厘 道路橋梁費

青梅街道ノ内、立川停車場道、稻城往還、厚木街道、青梅秩父往還、小野路道、八王子

停車場道(修正追加)改修及吹上峠橋梁架設費

(修正)金六萬貳千四拾圓七拾貳錢四厘

内 譯

金壹萬貳千八百拾五圓拾六錢貳厘

明治三十二年度支出額

(修正)金壹萬八千七拾壹圓拾七錢貳厘

金壹萬九千參百八拾參圓拾四錢參厘

明治三十三年度支出額

(修正)金貳萬四千六百九拾七圓五拾五錢參厘

金九千百拾四圓四拾錢參厘

明治三十四年度支出額

(修正)金九千百四拾八圓四拾壹錢

金四千七百四拾六圓參拾八錢六厘

明治三十五年度支出額

(修正)金六千四百貳拾六圓參厘

(修正追加)金參千六百九拾七圓五拾八錢六厘

明治三十六年度支出額

(修正理由) 常置委員會ノ意見ニ因リ工事ノ必要ヲ認メ増額且年度ヲ延長セリ

郡 第三號議案部 明治三十二年度郡部營業稅雜種稅課目課額……………修正

一併 優

一 等

月稅 [金拾圓]ト修正[

(四項省略) 六 等

同 [金壹圓五拾錢]ト修正[

(修正理由) 一等ヨリ六等迄前年度ニ比シ増額シアルモ前年度通トスルヲ適當ト認ムルニ由ル(常置委員會意見)

(二項省略) 八 等

同 金七拾五錢

一藝 妓

[藝 妓

月稅 金參圓

小藝妓 俗ニオ酌ト稱シ三味線ヲ携ヘサル者ヲ云フ

同 金壹圓五拾錢

(土地ニ依リテ區別シ藝妓一等地月稅參圓二等地貳圓五拾錢三等地貳圓小藝妓ハ別ニ區別ヲ設ケ一等地壹圓五拾錢二等地壹圓トス)ト修正

(修正理由) 土地ニ因リ繁閑アルヲ以テ之ヲ酌量シ稅額ヲ定ムルニ由ル(議員大久保善左衛門動議)

一車

自用馬車

二匹立以上

年稅 [金拾圓]ト修正[

第四章 府會の行動 明治三十一年の府會

同 一匹立 [金拾參圓] 修正
 營業人力車二人乘 乘臺ノ横巾内法 [金壹圓五拾錢] 修正
 同 二尺以上ノモノ [金貳圓] 修正
 同 一人乘 二尺未滿ノモノ [金壹圓參拾錢] 修正

(修正理由) 馬車稅ハ市部ト同一ニシテ常置委員會意見人力車稅ハ他トノ權衡上低廉ト認ムルニ由ル(議員伊藤祐治動議)

郡部 第四號議案部 明治三十二年度郡部地方稅收入豫算……………修正

一金拾四萬四千圓 (地租壹圓ニ付參拾參錢參厘餘) 稅
 一金壹萬七千六百八拾壹圓 營業稅

內
 商 業 稅 金壹萬貳千四百拾壹圓五拾六錢五厘
 工 業 稅 金五千五百參拾九圓四拾參錢五厘
 雜 種 稅 一金拾萬六千參百貳拾八圓四拾錢八厘
 (修正) 金拾萬七千百拾貳圓七拾錢八厘
 營業稅附加稅 (國稅額ノ十分ノ三) 一金壹萬六千五百九拾七圓六拾錢

一金拾四萬參千參百貳拾六圓八拾錢 (總戶數十萬三千八百六十戶) 割
 (修正) 金拾壹萬千參拾圓貳拾錢 (一戶ニ付壹圓參拾八錢) 二戶ニ付壹圓七錢

內
 (修正) 追加 金六萬九千參百拾貳圓四拾六錢 (五百郡戶數六萬四分) 賦
 (修正) 追加 金四萬千八百拾七圓七拾四錢 (三千七百七十八戶數三分) 萬九千八百八十二戶數三分
 雜 收 入 一金五萬六百七拾六圓六拾錢
 (修正) 金五萬七百參拾六圓六拾錢

(警察費雜入外六項省略)
 金四萬貳千參百九拾四圓五拾參錢八厘 賦 金
 貸座敷參萬貳千八拾八圓拾錢五厘 娼妓九千七百八拾五圓壹錢引手茶屋五
 百貳拾壹圓四拾貳錢

前々年度ヨリ繰越金 一金貳萬百五拾四圓參拾參錢八厘
 國庫下渡金 一金五萬五千七百五拾七圓八拾壹錢六厘
 (修正) 金五萬五千七百五拾四圓八拾貳錢四厘

一金六百五拾壹圓參拾九錢貳厘	國庫補助金
一金千七百五拾圓四拾參錢四厘	寄附金
一金拾萬圓	借入金

(修正) 削除

(修正理由) 借入ノ必要ナシト認ムルニ由ル(常置委員會意見)

總計金六拾五萬六千九百貳拾四圓參拾八錢八厘

(修正) 金五拾貳萬五千五百六拾九圓九錢六厘

郡部地方稅中戶數割賦課方法

郡部地方稅中戶數割賦課方法……………否 決

第一條 戶數割ハ其年四月一日ノ現在戶數ニ賦課ス

前項ノ現住戶數ハ本籍寄留戶主非戶主ヲ問ハス生計ヲ異ニスル者ハ假令同居スルモ各一戶トス

第二條 戶數割ハ前條ノ現住戶數ニ毎年度郡部會ニ於テ議定シタル課率ヲ乘シ各町村現住者ノ負擔總額ヲ定メ町村會ニ於テ其年四月二十日迄ニ各戶ノ課額ヲ議定スヘシ

(第三條乃至第六條省略)

附 則

第七條 本方法ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

(議決) 否決

(否決理由) 五郡ト三多摩郡トノ賦課法ヲ統一セントスルニアルモ多年支障ナク遂行シ來リシ慣例ヲ一朝ニ改メサルヘカラサル必要ヲ認メス且改正法ヲ實施スルトキハ負擔ニ激變ヲ來タスヲ以テ從來ノ儘据置カントスルニ由ル(常置委員會意見)

郡部 第六號 議案

明治三十二年度郡部備荒儲蓄金收入豫算……………可 決

一金壹萬六千五百參拾貳圓五拾錢 備 荒 儲 蓄 金

內

金壹萬六千五百參拾貳圓五拾錢 國債證書及預金利子

郡部 第七號 議案

明治三十二年度郡部學資金收入豫算……………修 正

一金六拾貳圓拾六錢五厘 學 資 金

第四章 府會の行動

明治三十一年の府會

(修正)金六拾四圓七拾五錢四厘

内

金參拾參圓六拾六錢五厘

預ケ 金 利 子

(修正)金參拾六圓貳拾五錢四厘

(修正理由) 年利六分五厘ヲ七分ニ見積ルニ由ル(常置委員會意見)

金貳拾貳圓五拾錢

國 債 證 書 利 子

金六圓

市 公 債 證 書 利 子

郡 第八號議案部

明治三十二年度郡部衛生資金收入豫算……………可 決

一金百參拾貳圓六拾六錢參厘

衛 生 資 金

資金ニ對スル年七分ノ利子

郡 第九號議案部

明治三十二年度郡部公共財産所屬教育費收支

豫算……………可 決

收 入

一金四百拾四圓貳拾八錢貳厘

公共財産所屬教育費收入

内

金參百貳拾七圓五拾錢

公 債 證 書 利 子

金八拾六圓七拾八錢貳厘

恤 救 米 代 下 渡 金

支 出

一金參百六拾參圓八拾四錢

公 共 財 産 所 屬 教 育 費

内

金參百五拾圓四拾錢

養 育 料

金拾參圓四拾四錢

埋 葬 料

郡 第十號議案部

明治三十二年度郡部恩賜金收入豫算……………可 決

一金四百貳拾七圓五拾錢

恩 賜 金

内

金四百貳拾七圓五拾錢

公 債 證 書 利 子

郡 第十一號議案部

起債及利息ノ定率並償還ノ方法……………廢 棄

第一條 明治三十二年度臨時土木費ニ要スル郡部地方税ノ支出ニ充ツルタメ金拾萬圓ヲ郡部備荒儲蓄金ヨリ其須要ニ應シ借入ルルモノトス

第二條 借入金ノ利息ハ年七分トシ借入ノ月ヨリ償還ノ月迄月割ヲ以テ毎年三月及九月ニ仕拂フモノトス

第三條 借入金ハ明治三十三年度及明治三十四年度ニ於テ毎年三月及九月ニ金貳萬五千圓宛ヲ償還スルモノトス

(議決)廢棄

(廢棄理由) 聯帶及郡部各費目ニ削減ヲ加ヘタル結果起債ノ必要ナキニ至リシニ由ル(常置委員會意見)

郡部 第十二號議案

明治三十二年度郡部地方税支出追加豫算……………可決

一金四千六百參拾圓九拾參錢

土 木 費

内

金四千六百參拾圓九拾參錢

道 路 橋 梁 費

北千住停車場道(千住町内)改修費

郡部 第十三號議案

明治三十二年度郡部地方税收入追加豫算……………可決

一金千七百六拾五圓六拾貳錢

戶 數 割

一金貳千九百拾五圓四拾六錢五厘

寄 附 金

合計金四千六百八拾壹圓八錢五厘

郡部 第十七號議案

特別費目設置ノ件……………可決

郡部地方税支出費目勸業費ノ次ニ左ノ費目ヲ設置ス

一 勸業補助費

郡部 第十八號議案

明治三十一年度郡部地方税支出追加豫算……………修正

一金七千九百貳拾五圓貳拾九錢八厘

土 木 費

(修正)金五千七百四拾壹圓參拾錢九厘

内

金五千八百四拾五圓七拾參錢五厘

道 路 橋 梁 費

(修正)金參千九百貳拾參圓參拾參錢貳厘

(修正理由) 枋淵通道路修繕面積ヲ減シ及橋梁費ニ於テ減スルニ由ル(常置委員會意見)
治水堤防費

堤防川除修繕費

(修正)金千八百拾七圓九拾七錢七厘 (常置委員會意見)

一金八拾七圓四錢六厘

町村土木補助費

一金四百五拾圓

郡吏員給料旅費及廳中諸費

一金參百九拾七圓八拾錢

救育費

行旅病者費

一金八百圓

勸業補助費

東京府農會補助費(初回補助)

一金貳千四百圓

地方稅取扱費

町村交付金

合計金壹萬貳千六拾圓拾四錢四厘

(修正)金九千八百七拾六圓拾五錢五厘

郡第十九號議案部

明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

(註) 郡部第十八號議案の支出及聯帶支出の割受額に對する收入である。

一金六萬六千參百拾五圓四拾參錢四厘

地租割

(修正)金九萬參千參百七拾七圓六拾六錢四厘

(修正理由) 將來ニ於テ要スヘキ師範學校ノ建築費ニ充ツヘキ收入ハ勢ヒ戸數割ニ賦課セサルヘカラサルヲ以テ今回ハ戸數割ヲ減シテ地租割ニ増課スルニ由ル(常置委員會意見)

一金四萬五千五拾四圓拾五錢四厘

戸數割

(修正)金五千貳拾貳圓拾六錢六厘

合計金拾壹萬千參百六拾九圓五拾八錢八厘

(修正)金九萬八千四百九拾九圓八拾參錢

郡第二十號議案部

明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………可決

一金千參拾圓

郡部會議諸費

旅費、印刷費

郡部
第二十一號議案

明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………可決

一金千參拾圓

戶數割

諮問郡第一號 地方稅支辨及補助道へ編入及變更ノ件……………答申議決

地方稅支辨へ編入路線

北千住停車場道

日向和田停車場道

地方稅補助道ヲ同支辨道へ變更路線

中田道

地方稅補助道へ編入路線

松原道

志木道

地方稅補助道ヨリ削除路線

白子道

右北千住及日向和田停車場道ハ鐵道停車場設置、中田道ハ該路傍ニ郡病院設置ノ爲メ交通頻繁ヲ加ヘ他ノ支辨道ト同一ノ資格アルモノト認メ又松原道ハ世田ヶ谷村ニ兵營新設志木道ハ埼玉縣片山村、膝折村附近ニ諸種ノ製造所開設ノ爲メ通行多キヲ加フルニ至リシヲ以テ前記ノ通編入又ハ變更シ而シテ白子道ハ志木道編入ノ爲メ補助道ヨリ之ヲ削除セントス
(答申)中田道ハ府費支辨道ニ編入セサルヘカラサル程ノ必要ヲ認メサルニ付削除スルヲ可トス其他ハ諮問ニ同意ス(常置委員會意見)

明治三十一年度郡部地方稅收支精算報告……………承認

市區改正委員ニ郡部會議員ヲ加フル建議……………可決

(建議の大要) 東京市區改正委員中に、郡部選出の議員若干名を加へられたいと、内務大臣に建議するので、其の趣旨は前年の建議と同一で、多數を以て可決した(議員高松喜六發議)。

多摩川、神田兩上水路橋梁費負擔ニ關スル建議……………可決

(建議の大要) 多摩川、神田の兩上水路に架する橋梁費を、東京市の負擔に歸するやう、前年來屢々建議したが未だに其の目的を達成するに至らないので、今回は同一の趣旨を内務大臣と知事に建議するといふので案は多數を以て可決した(議員大久保善左衛門發議)。

郡部ニ於ケル郵便物集配度數増加ニ關スル建議……………可決

(建議の大要) 從來郡部に於ける郵便物集配の度數増加に關しては屢々建議したので府當局から逡信當局に交渉したとのことであるが、未だに實現を見るに至らないのは、甚だ遺憾とする所である。民間の不便疾苦を察して、急速に詮議せらるる様重ねて配慮を望む旨、知事に建議するので案は多數を以て可決した(議員伊藤祐治發議)。

第二十二節 明治三十二年の府會 (府縣會規則廢止迄)

第一 臨時府會

本會は、明治三十二年三月二十日午後五時を以て開會し、議事三日間に涉つて、二十五日午後三時二十五分散會した。

開會に當つて、知事男爵千家尊福は、次の開會の趣旨を述べた。

「今回臨時府會市部會及郡部會ヲ開クニ方リ各員ノ速ニ參會セラレタルハ本官ノ深ク満足スル所ナリ

抑モ師範學校ノ建築ヲ要スルハ生徒定員ニ關スル勅令發布ノ結果ニシテ既ニ其ノ建築地ノ購買費豫算ハ會テ本會ノ議決ヲ經タルヲ以テ校舍其他ノ建築豫算案ヲ客年通常府會ニ提出シタリ然ルニ府會ハ尙ホ調査ノ必要アリトシ建議ヲ爲シタルニ依リ其ノ趣旨ヲ酌ミ之ヲ撤回センメ爾後精査ヲナシ更ニ敷地ヲ選ミ設計ヲ變更シテ茲ニ提案セリ本件ハ殊ニ急要ニ屬スルモノナリ

又今回勅令第三十一號高等女學校令ノ發布ニ依リ本府ニ高等女學校ノ設置ヲ要ス故ニ從來管理スル所ノ高等女學校ヲ府ノ經濟ニ移シテ其ノ基礎ヲ鞏固ニシ以テ女子教育ノ發達ヲ圖ラントシ之ニ關スル諸案ヲ提出セリ

其他ノ諸案ハ河川法ノ施行ニ伴フモノ隣縣ト連帶ノ起工ヲ要スルモノ規定ニ依リ補助ヲ要スルモノ等必要ノ追加ニ屬ス各員速カニ審議ヲ遂ケ允當ノ議決アラント望ム(明治三十二年府會議事録)

芳野議長は、先づ、議員の異動を報告し、且つ逝去した議員岡野徳之助、福崎和吉、大場信愛の遺族に對して、議長から弔詞を贈つた旨を併せて報告した。

この臨時府會に於て、最も重要な案件である、師範學校の位置に關する諮問案は、調査委員を設けて實地踏査を行つたが、會期切迫の爲充分審議する餘日なく、これと關聯した師範學校建築費繼續年度支出案と共に、次の府會に提出を希望する動議が可決され、理事者も之を諒として、右兩案を撤回した。

議案 附諮問案

- 府第十六號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算(府會議諸費)……………可決
- 府第十七號議案 自明治三十二年年度繼續地方稅教育費支出豫算……………撤回
- 府第十八號議案 高等女學校財產編入ノ件……………可決
- 府第十九號議案 明治三十二年度地方稅支出追加豫算(土木費教育費)……………修正
- 府第二十號議案 明治三十二年度地方稅收入追加豫算……………可決

- 府第二十一號議案 明治三十二年度高等女學校基本金收入豫算……………可決
- 府第十六號議案 聯帶經費負擔割合追加ノ件……………可決
- 諮問 府第一號 師範學校位置選定ノ件……………撤回

議決摘要

府第十六號議案 明治三十一年度地方稅支出追加豫算……………可決

一金四百貳拾八圓拾錢 府會議諸費

賄費及印刷費追加

府第十七號議案 自明治三十二年年度繼續地方稅教育費支出豫算……………撤回

一金貳拾壹萬七千四百拾七圓貳拾五錢七厘 教育費

内

金貳拾壹萬七千四百拾七圓貳拾五錢七厘 師範學校建築費

支出年度割

金拾參萬參百四拾八圓參拾五錢貳厘 明治三十二年度支出額

金八萬六千七百九拾八圓九拾錢五厘 明治三十三年度支出額

(撤回)

(撤回理由) 諮問府第一號と共に撤回した。

府第十八號議案 高等女學校財産編入ノ件……………可決

一金參百七拾壹圓六拾五錢九厘 基 本 金

内

金貳百圓

皇后陛下御下賜金

金百七拾壹圓六拾五錢九厘

寄附金及其ノ利子

一校舎二階建 一棟

建坪百二十七坪二合五勺

一圖書 八百二十冊

一教授用器械並標本類 七百四十三個

一器具 千六百七十七個

右ハ神田區錦町三丁目高等女學校ニ屬スル財産ノ處地方稅經濟ニ之ヲ編入セン

トス

(原案説明) 今般勅令第三十一號ヲ以テ高等女學校令發布ニ依リ本府ニ於テ高等女學校設置ヲ要スル處從來知事ノ管理ニ屬スル前記財産アルヲ以テ之ヲ地方稅經濟ニ移サントスルニ由ル

府第十九號議案 明治三十二年度地方稅支出追加豫算……………修正

一金九千五百八拾四圓參拾八錢九厘 土 木 費

(修正)金七千九百九拾六圓六拾四錢九厘

内

金九千五百八拾四圓參拾八錢九厘 治水堤防費

堤防修繕費及河川法施行費

(修正)金七千九百九拾六圓六拾四錢九厘

(修正理由) 河川法施行費ニ於テ減スルニ由ル(常置委員會意見)

一金七千四百七圓貳拾參錢 教 育 費

(修正)金七千參百九拾九圓八拾八錢

内

金七千四百七圓貳拾參錢

高等女學校費

(修正)金七千參百九拾九圓八拾八錢 (常置委員會意見)

(原案説明) 高等女學校令ニ基キ高等女學校設置ニ付其ノ經費ヲ要スルニ由ル

合計金壹萬六千九百九拾壹圓六拾壹錢九厘

(修正)金壹萬五千參百九拾六圓五拾貳錢九厘

府第二十號議案 明治三十二年度地方稅收入追加豫算……………可決

一金六千四百五拾五圓

雜收入

教育費雜入(高等女學校分)

府第二十一號議案 明治三十二年度高等女學校基本金收入

豫算……………可決

一金貳拾四圓拾五錢八厘

基本金

預金利子

府第十六號議案 聯帶經費負擔割合追加ノ件……………可決

明治三十二年度府會ト郡市部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費負擔割合第三條ニ左ノ通追加ス

教育費尋常中學校費ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

市 九分三厘二毛
郡 六厘八毛

高等女學校費

監獄建築修繕費ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

「自明治三十二年度至明治三十三年度」
市 五分八厘〇三
郡 四分一厘九毛七

繼續教育費

(註) 府第十七號議案及諮問府第一號が撤回された結果として、本項は自然消滅したものと認めることに決した。

諮問府第一號 師範學校位置選定ノ件……………撤回

東京府師範學校ノ位置ハ東京市小石川區老松關口臺ノ兩町内ニ選定セントス

(撤回)

(撤回理由) 議員角田眞平ヨリ本案ハ教育上重大ノ問題ナルニ會期ハ已ニ切迫シ到底充分ノ審議ヲ盡ス能ハサルニ付府第十七號議案ト共ニ更ニ臨時會ヲ開キ提案セラレンコトヲ望ム旨發議シタルニ賛成多數ヲ以テ之ニ決シ府知事ハ之ヲ容レテ撤回シタルモノナリ

(經過) 本諮問ハ極メテ重要ナルヲ以テ特ニ十七名ノ委員ヲ設ケ委員ハ各候補地ヲ實地踏査ノ結果諮問案ノ兩町ノ外、雜司ヶ谷、王子、廣尾町、白金三光町等ニ涉リ調査市外王子村(扇屋ノ横鐵道踏切ヲ越へ坂上高臺ノ地處)ヲ以テ最モ適當ト認ムル旨報告アリタリ但右ハ委員中九名ノ多數ヲ以テ決シタルモノニシテ別ニ少數(七名)意見トシテ諮問ノ個所ヲ適當ト認ムル旨報告アリ

第一臨時市部會
回

本會ハ、明治三十二年三月二十日午後五時二十分開議シ、會議三日間に涉つて、同月二十五日午後三時三十分議事終了散會した。

議案 附諮問案

- 市第十九號議案部 明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可決
- 市第二十號議案部 明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………可決
- 市第十一號議案部 明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………修正
- 諮問市第一號 高等女學校貸付金棄捐ノ件……………答申議決

議決摘要

市第十九號議案部

明治三十一年度市部地方稅支出追加豫算……………可決

一金壹萬貳百拾七圓四錢貳厘

警察費

巡查四十四人分俸給及之ニ伴フ諸費

(原案説明) 銀行會社等ヨリ請願巡查ノ派出ヲ願出ルモノ多キヲ以テ請願巡查費ヲ追加スルニ由ル

一金六拾四圓參拾五錢

市部會議諸費

常置委員手當、備給、雜費

一金貳千貳百參拾參圓七拾參錢八厘

市町村傳染病豫防補助費

合計金壹萬貳千五百拾五圓拾參錢

市第二十號議案部

明治三十一年度市部地方稅收入追加豫算……………可決

(註) 市部第十九號議案に對する收入である。

- 一金貳千百九拾圓參拾六錢四厘 家屋稅
- 一金壹萬貳百拾七圓四錢貳厘 雜收入
- 警察費雜入(請願巡查費收入)

一金參百七拾貳圓貳拾九錢

國庫補助金

合計金壹萬貳千七百七拾九圓六拾九錢六厘

市部
第十一號議案

明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………修正

一金四萬五千七百七拾壹圓六拾九錢壹厘

家屋稅

(修正)金四千九百五拾八圓九拾壹錢九厘

(修正理由) 聯帶支出ノ減額ニ伴フニ由ル(議員小島官吾動議)

一金參萬五千六百四拾四圓九拾七錢四厘

雜收 入

(修正)削除

(修正理由) 聯帶支出ノ減額ニ伴フニ由ル(議員小島官吾動議)

合計金八萬千四百拾六圓六拾六錢五厘

(修正)金四千九百五拾八圓九拾壹錢九厘

諮問市第一號 高等女學校貸付金棄捐ノ件……………答申議決

一金參千圓

右ハ明治二十七年十一月高等女學校々舎建築費トシテ市部學資金ヨリ十ヶ年賦

償還ノ契約ヲ以テ貸付セシニ爾來經濟上ノ支障ヨリ年々償還ヲ延期セリ然ルニ
明治三十二年度ヨリ該校ヲ地方稅經濟ニ移シ府ノ事業トナスヲ以テ前記貸付金
ノ全部ヲ棄權セントス

(答申)本諮問ハ高等女學校ニ屬スル財產ヲ地方稅聯帶經濟ニ移スヲ以テナルヘキ
モ假令聯帶經濟ニ移シタリトテ市部經濟ニ屬スル貸付金ヲ棄權スルノ必要ヲ認
メス(常置委員會意見)。

第一臨時郡部會

本會は、明治三十二年三月二十日午後五時四十七分開議し、議事三日間に涉つて、
三月二十六日午後一時五十五分終了散會した。

議案 附諮問案

郡部 第二十二號議案	明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………可決
郡部 第二十三號議案	明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………可決
郡部 第十四號議案	明治三十二年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正
郡部 第十五號議案	明治三十二年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

諮問郡第二號 地方稅支辨道へ編入ノ件……………答申議決
議決摘要

郡部 第二十二號議案

明治三十一年度郡部地方稅支出追加豫算……………可決

一金千參百貳拾八圓四拾參錢參厘

警 察 費

巡查六人分俸給及之ニ伴フ諸費

(原案説明) 銀行諸會社等ヨリ請願巡查ノ派出ヲ願出ルモノ多キニ付請願巡查費ヲ追加スルニ由ル

一金參百拾八圓九拾錢

郡 部 會 議 諸 費

備給、旅費、雜費

一金六千八百八拾九圓參拾壹錢五厘

市町村傳染病豫防補助費

合計金七千八百參拾六圓六拾四錢八厘

郡部 第二十三號議案

明治三十一年度郡部地方稅收入追加豫算……………可決

(註) 郡部第二十二號議案に對する收入である。

一金貳千九百五拾七圓八錢七厘

營 業 稅

實收超過ヲ生スヘキ見込

一金四千拾壹圓五拾四錢貳厘

雜 收 入

警察費雜入(請願巡查費收入)

一金千參拾壹圓五拾五錢參厘

國 庫 補 助 金

傳染病豫防補助費補助金

合計金八千圓拾八錢貳厘

郡部 第十四號議案

明治三十二年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正

一金九千七百六拾七圓五拾貳錢七厘

土 木 費

(修正)金四千九拾九圓五拾四錢七厘

内

金九千七百六拾七圓五拾貳錢七厘

道 路 橋 梁 費

橋梁架換費

(修正)金四千九拾九圓五拾四錢七厘 (常置委員會意見)

第四章 府會の行動

明治三十二年の府會

一金貳千七百六拾圓八錢五厘

町村土木補助費

以樋補助費

一金貳千貳百八拾四圓九拾貳錢

地方稅取扱費

(修正)削除

(修正理由) 戶數割ノ減額ニ伴フニ由ル

合計金壹萬四千八百拾貳圓五拾參錢貳厘

(修正)金六千八百五拾九圓六拾參錢貳厘

郡部
第十五號議案

明治三十二年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

一金壹萬六千六拾八圓五錢九厘

地租 割
(地租壹圓ニ付四錢參厘九毛)

(修正)金壹萬七百六拾圓八拾四錢壹厘

地租 割
(地租壹圓ニ付貳錢九厘四毛)

一金五萬七千百貳拾參圓

戶數 割
(總戶數十萬三千八百六十戶)

(修正)金八拾壹圓四拾錢壹厘

寄附金
(收入過ヲ以テ充ツ)

一金千百五拾圓

(修正)削除

(修正理由) 架橋費ノ削除ニ伴フニ由ル(常置委員會意見)

合計金七萬四千參百四拾壹圓五錢九厘

(修正)金壹萬八百四拾貳圓貳拾四錢貳厘

諮問郡第二號 地方稅支辨道へ編入ノ件……………答申議決

地方稅支辨道へ編入路線

圓德寺前道

右圓德寺前道ハ地方稅補助道ナルモ近年沿道附近ニ諸種ノ工場等開設ノ爲メ交通頻繁ヲ加ヘ郡内ニ於テ最モ樞要ノ道路トナリタルヲ以テ來ル三十二年度ヨリ地方稅支辨道へ編入セントス
(答申)諮問ニ同意ス

第二臨時府會
回

本會は、明治三十二年四月一日午後四時四十分開會し、議事二日間に涉り、四月七日午後九時終了散會した。

開會の初め、知事男爵千家尊福は、開會の辭に次で、今回提出の師範學校位置選定の諮問案並に同建築に關する議案について大體の説明を試みた。諮問案は前臨時會と同様十七名の調査委員を設け、其の調査報告に基いて答申議決した。

議案 附諮問案

諮問府第二號 師範學校位置選定ノ件……………答申議決

府第二十三號議案 自明治三十二年年度繼續地方稅教育費支出豫算……………修正

府第二十二號議案 聯帶經費負擔割合追加ノ件……………可決

議決摘要

諮問府第二號 師範學校位置選定ノ件……………答申議決

東京府師範學校ノ位置ハ東京市小石川區老松、關口臺ノ兩町内ニ選定セントス右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(答申)東京府師範學校ハ赤坂區青山北町五丁目二十四番地二十五番地四十八番地四十九番地五十番地ノ地所ヲ以テ適當ト認ム但設計ニ不必要ナル千四百坪ハ除

クモノトス

(修正理由) 十七名ノ調査委員ヲ設ケ(議員大貫實發議實地踏査ノ結果ニ由ル

(註) 調査委員は次の通りであつた。

大貫 實	吉田 幸作	角田 眞平	大久保善左衛門	佐野守之助
富岡彦太郎	谷岡慶治	小島重兵衛	小島官吾	井上吉之助
根岸 太助	苗村又右衛門	木村 莊平	牧田 義雄	江間 俊一
稻田 政吉	伊藤 祐治			

府第二十三號議案 自明治三十二年年度繼續地方稅教育費支出豫算……………修正

一金貳拾壹萬七千四百拾七圓貳拾五錢七厘 師範學校費中建築費

(修正)金拾八萬六千六百八拾貳圓四拾參錢五厘

内

金拾參萬參百四拾八圓參拾五錢貳厘 明治三十二年度支出額

本校舎其他要急建物建設費

(修正)金拾壹萬千九百參拾六圓六拾六錢

(修正理由) 各廉ニ涉リ設計ニ多少ノ變更ヲ加ヘ或ハ一個當ヲ減セル等ニ由ル(常置委員見

議員吉田
幸作動議

金八萬六千七百九拾八圓九拾錢五厘

明治三十三年度支出額

講堂其他殘建築費

(修正)金七萬四千七百四拾五圓七拾七錢五厘

(修正理由) 各廉ノ見積額ヲ減シ常置委員會意見地均費ヲ減スルニ由ル議員吉田幸作動議

府第二十二號議案 聯帶經費負擔割合追加ノ件……………可決

明治三十二年度府會ト郡市部會トニ於テ議定スヘキ事件ノ區別及聯帶經費負擔割

合第三條中監獄建築修繕費ノ次ニ左ノ通追加ス

自明治三十二年年度繼續教育費(師範學校建築費) 郡市五分八厘〇三
至明治三十三年年度 郡四分一厘九毛七

第二臨時市部會

本會は、明治三十二年四月七日午後九時開議し、午後九時五分散會した。

議案

市第十二號議案部

明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………修正

議決摘要

市第十二號議案部

明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………修正

一金七萬五千六百四拾壹圓拾四錢九厘

雜收 入

(修正)金六萬七千貳百九拾貳圓拾六錢五厘

內

金七萬五千六百四拾壹圓拾四錢九厘

市部地方稅事業基金收入

(修正)金六萬七千貳百九拾貳圓拾六錢五厘

(修正理由) 聯帶師範學校建築費議案ノ修正減額ニ伴フニ由ル常置委員會意見

第二臨時郡部會

本會は、明治三十二年四月七日午後零時三十五分開議し、午後一時三十分散會した。

議案

第四章 府會の行動 明治三十二年の府會

郡部 第十六號議案部 明治三十二年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正
 郡部 第十七號議案部 明治三十二年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

議決摘要

郡部 第十六號議案部 明治三十二年度郡部地方稅支出追加豫算……………修正
 地方稅取扱費

一金貳千參百五拾八圓八拾錢

(修正)金貳千參拾四圓七拾五錢八厘

(原案説明) 郡部第十七號議案戶數割追加徵收取扱費

(修正理由) 別案戶數割ノ減額ニ伴フニ由ル常置委員會意見

郡部 第十七號議案部 明治三十二年度郡部地方稅收入追加豫算……………修正

一金五萬七千百貳拾參圓

(修正)金四萬九千貳拾壹圓九拾貳錢

(修正理由) 聯帶師範學校建築費ノ減額ニ伴フニ由ル常置委員會意見

第三 臨時市部會

本會は、明治三十二年六月二十日午後五時開會し、午後五時三十五分散會した。開會の劈頭に知事男爵千家尊福は、簡單に開會の辭を述べ、芳野議長は、議員の異動を報告して直ちに議事に入つた。

議案二件は、孰れも原案に決したが、最後に、議員小島官吾の發議に依つて、議員芳野世經の功勞に對する感謝の決議をした。其の顛末を、議事録から次に轉載する。

四十八番小島官吾曰 本員ハ諸君ノ御贊同ヲ得テ決議セントスルモノアレハ暫時ノ間御清聽ヲ煩サントス我カ市部會ニ於テ先輩ニシテ功績顯著ナル人其人ハ今議長席ニ在ル芳野世經君ナリ氏ノ當市部會ノ爲メニ盡サレタル功績ハ蓋シ偉大ナルモノト云フヘシ併シ君ノ面前ニ於テ斯ノ如ク縷々スルハ却テ敬ヲ缺クノ虞モアレハ本員ハ其ノ草案ヲ朗讀シ以テ其ノ一、二ノ缺クル所ヲ補フヘシ

(註) 小島議員の朗讀した草案は最後の決議文と同一であるので茲には省略する。

而シテ府會ニ於テハ已ニ氏カ明治二十三年國會開設ノ際衆議院議員ニ擧ケラレシ當時ニ於テモ氏ニ斯ル決議ノナキニ非サレトモ其ハ府會ノ決議ニシテ我カ市部會ノ決議ニアラサレハ今回ハ當市部會ニ於テ決議シタキト存スルナリ今御參考トシテ其ノ決議書ヲ朗讀セシムヘシ

(書記朗讀)

「前四十七番議員芳野世經君ハ府會創設以來十有二年間其職ニ在リ加フルニ正副議長ノ

重任ヲ荷ヒ府政ニ對スル盡力少ナカラサルヲ以テ茲ニ其勞ヲ謝ス
四十八番曰 斯ノ如ク大多數ヲ以テ決議セラレタリ又氏ノ公共事業ニ向テノ善行ハ既ニ
二十七年政府ニ於テモ認メラレ藍綬褒章ヲ下賜セラレタリト聞ク故ニ本員ノ前キニ朗讀
シタルガ如キ案ヲ當市部會ノ滿場一致ヲ以テ決議セントス
(此際贊成ノ下呼フ者多ク又拍手ノ聲場内ニ響ケリ)

議長曰 甚タ恐縮ナカラ決ヲ採ルヘシ四十八番ノ説ニ贊成ノ諸君ハ起立アレ
起立滿場一致

決 議

我市部會ハ明治十二年一月區部會ノ名ヲ以テ創設セラル其間幾多ノ變遷ヲ經テ歲ヲ閱
スルコト茲ニ二十有餘年然ルニ議員芳野世經君ハ在職ノ長キ本會ト其ノ始終ヲ共ニシ
時ニ常置委員ノ要職ニ膺リ時ニ議長副議長ノ重任ヲ負ヒ苦心經營其ノ責務ヲ完フシ府
政ニ對スル功績實ニ偉大ナリト謂ツヘシ今ヤ府縣制ノ改正ト共ニ代議機關ノ組織ヲ一
變シ爲メニ本會ハ此ノ月ヲ以テ其ノ終リヲ告ケント欲スルニ際リ茲ニ本會ノ決議ヲ以
テ君ノ勞ヲ謝ス

議事終了即日午後五時三十五分散會した。

議 案

市 第十三號議案部

明治三十二年度市部地方稅支出追加豫算……………可 決

市 第十四號議案部

明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………可 決

議決摘要

市 第十三號議案部

明治三十二年度市部地方稅支出追加豫算……………可 決

一金參千貳百五拾圓拾壹錢八厘

警 察 費

巡查二十人分俸給及之ニ伴フ諸費

(原案説明) 本年七月ヨリ新條約實施ニ付居留地取締ニ要スル費用ヲ地方稅支辨ニ移サレ
タルニ由ル

一金五拾參圓貳拾七錢四厘

警察廳舍建築修繕費

一金參萬七千百拾六圓參拾四錢參厘

教 育 費

建築費及備品消耗品費

(原案説明) 職工教育施設ノ緊切ナルヲ認メ金工木工ニ屬スル職工學校ヲ設置セントスル
ニ由ル

合計金四萬四百拾九圓七拾參錢五厘

市 第十四號議案部

明治三十二年度市部地方稅收入追加豫算……………可 決

一金參百八圓五拾四錢	家屋稅
實收超過見込分	
一金參萬參千八百七圓八拾錢參厘	雜收
市部事業基金收入	入
一金六千參百參圓七拾參錢五厘	國庫補助金
職工學校ニ對スル補助金	
合計金四萬四千百拾九圓七拾參錢五厘	

關係法令拔萃 (府會の行動に關する法令)

◎府縣會規則關係

府縣會規則制定	(明治十一年七月二十二日太政官布告第十八號)
同 規則中改正	(明治十二年四月四日太政官布告第十二號)
同 規則全文改正	(明治十三年四月八日太政官布告第十五號)
同 規則第五章追加	(明治十三年十一月五日太政官布告第四十九號)
同 規則中追加削除	(明治十四年二月十四日太政官布告第四號)

同 規則中改正追加	(明治十五年二月十四日太政官布告第十號)
同 規則中改正	(明治十五年十二月二十八日太政官布告第六十八號)
同 規則中改正	(明治十七年十二月八日太政官布告第二十八號)

○府縣會規則 (明治十一年七月太政官布告第十八號)

府縣會規則左ノ通被定候條此旨布告候事

第一章 總 則

- 第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時會ニ開ク者ヲ臨時會トナス
- 第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス
- 第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス
- 第五條 凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ付シ其議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ク
- 第七條 通常會期中議員ノ内一人又ハ數人其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セ

ントスル者アレハ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ過半数ノ同議ヲ得タルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ之ヲ内務卿ニ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ選フ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ府知事縣令之ヲ認可シ内務卿ニ報告ス可シ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ但前條ノ第一款第二款第三款ニ觸ルル者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クトモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 投票ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル用紙ニ選舉人自己及ヒ被選人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ投票ハ多數ノ者ヲ以テ當選人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ圖ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ託シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ査シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ査ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其選ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當選人ノ當否ヲ査定スルノ後郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當選狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル後郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スル者アルカ其府縣外ニ轉住スルカ又ハ死去シタルトキハ更ニ其缺ニ代ル者ヲ選舉ス其疾病等止ムヲ得サル事故ナクシテ開會ノ招集ニ應セサル者ハ退職者トシ亦其缺ニ代ル者ヲ選舉ス

第三章 議 則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辯明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開 閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖トモ其事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ附スヘキ事務アル時府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムル時ハ内務卿ハ何レノ時ヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ更ニ議員ヲ改選スヘシ

○府縣會規則中改正 (明治十二年四月太政官布告第十三號)

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則第十三條第二款左ノ通改正候條此旨布告候事

第二款 懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニアラス

○府縣會規則全文改正 (明治十三年四月太政官布告第十五號)

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總 則

- 第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時會トナシ
- 第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス
- 第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其ノ他ノ事件ヲ議スルヲ得ス
- 第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務大臣藏兩卿ニ上申スルコトヲ得
- 第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務卿ニ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得 府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

第二章 選 舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ選フ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ內務卿ニ報告スヘシ 議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ得ス

- 第一款 風癩白痴ノ者
- 第二款 懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

第四章 府會の行動 關係法令拔萃

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルル者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クトモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被選人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ鬪ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ査シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ査ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其選ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當選人ノ當否ヲ査定スルノ後郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當選狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル後郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉住スルカ其他總テ缺員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ選舉ス

第三章 議 則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第四章 府會の行動

關係法令抜萃

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開 閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ延ルコトヲ得ルト雖モ其事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事務アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ內務卿ハ何レノトキヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改選スヘシ

○府縣會規則第五章追加 (明治十三年十一月太政官布告第四十九號)

本年^本月^本第四十八號ノ布告アルニ依リ本年^四月^本第十五號布告府縣會規則ヘ左ノ通追加ス此旨布告候事

第五章 常置委員

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニヨリ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ執行スルノ方法順序ニ付毎ニ府知事縣令ハ諮問ヲ受ケ其意見ヲ述ヘ及ヒ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取り會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス

第四十一條 常置委員會議ノ議長ハ府知事縣令之ヲ勤ムヘシ但第三十八條ノ報告ヲ爲スニ就テノ會議議長ハ時々委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ
第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辯明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二箇年トシ期限ニ至リ再選スルヲ得

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ議長之ヲ選任ス

第四十八條 常置委員ハ參拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

〔參照〕 今般歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ増加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ左ノ通制定候事(明治十三年十一月太政官布告第四十八號)

第一條 本年四月第十六號布告第一條地方稅目中[地租五分一以內]下アルヲ[地租三分一以內]ト改定ス

第二條 同上布告第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中左ノ三項ヲ増加ス

一 府縣廳舎建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ府縣土木(即チ府港、道路、堤防、橋梁、建築修繕費)中官費下渡

金ハ來ル十四年度ヨリ廢止トス

○府縣會規則中追加削除 (明治十四年二月太政官布告第四號)

府縣會規則中左ノ通追加削除候條此旨布告候事

第五條へ左ノ一項追加

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ

第九條へ同上

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得

第三十三條へ左ノ二項追加

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セサルコトアルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第三十四條中(閉會ヲ命シ又ハ)ノ七字削除

同條へ左ノ一項追加

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシ

ムヘシ

第三十七條中(議定ニ依リ)ノ下(地方稅ヲ以テ支辨スヘキ)ノ十一字削除

○府縣會規則中改正追加 (明治十五年二月太政官布告第十號)

明治十三年四月第十五號及同年十一月第四十九號布告府縣會規則中左ノ通改正追加ス

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得

第十條へ追加 每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ増選スルヲ得

第十三條

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑

滿期後五年ヲ經サル者

第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者

第十四條但書

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルル者及陸海軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第二十四條中(轉任)ヲ(轉籍)ト改ム

同條へ追加

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル

第三十六條へ追加 常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘシ

第四十條中(常置委員ノ)ノ下へ(諮問)ノ二字ヲ加フ

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第四十六條中(二箇年トシ)ノ下議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但ノ十三字ヲ加フ

第四十七條中(議長ヲ)府知事縣令ノ五字ニ改ム

右奉 勅旨布告候事

○府縣會規則中改正 (明治十五年十二月太政官布告第六十八號)

明治十三年四月第十五號布告同年十一月第四十九號布告府縣會規則中左ノ通追加改正ス

第六條 二項

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若クハ其代理人之ヲ說

明スヘシ

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ

第三十三條 二項 四項

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

○府縣會規則中改正 (明治十七年十二月太政官布告第二十八號)

明治十三年四月第十五號布告府縣會規則第三十一條中三月ヲ十一月ト改正シ明治十八年十一月ヨリ施行ス

○府縣會規則(修正) (明治十七年十二月現在)

第一章 總 則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ(明治十四年二月太政官布告第四號ヲ以テ本項追加)

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務大臣兩卿ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ説明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若クハ其代理人之ヲ説明スヘシ(明治十五年十二月太政官布告第六十八號ヲ以テ本項追加)

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本條改正)

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得 府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得(明治十四年二月太政官布告第四號ヲ以テ本項追加)

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ選フ 每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ増選スルヲ得(明治十五年二月太政官布告第

十號ヲ以テ本項追加)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告スヘシ 議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者 新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ期ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本款改正)

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本款改正)

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者 第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルル者及陸海軍人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ但書改正)

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クトモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ(明治二十二年二月法律第六號ヲ以テ本條廢止)

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被選人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ鬪ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ(明治二十二年二月法律第六號ヲ以テ本條廢止)

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ査シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ査ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其選ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル(明治二十二年二月法律第六號ヲ以テ本條廢止)

第十九條 當選人ノ當否ヲ査定スルノ後郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當選狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル後郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ(明治二十二年二月法律第六號ヲ以テ本條廢止)

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス第一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公選スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他總テ缺員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ選舉ス但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本條改正)

第三章 議 則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ル

第四章 府會の行動 關係法令拔萃

コトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開 閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得
(明治十五年十二月太政官布告第六十八號ヲ以テ本條改正同十七年十二月太政官布告第二十八號ヲ以テ三月十一月ト改正同十八年十一月ヨリ施行)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ(明治十五年十二月太政官布告第六十八號ヲ以テ本條改正)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(明治十四年二月太政官布告第四號ヲ以テ本項追加同十五年十二月太政官布告第六十八號ヲ以テ改正)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(明治十四年二月太政官布告第四號ヲ以テ本項追加)

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(明治十五年十二月太政官布告第六十八號ヲ以テ本項追加)

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ內務卿ハ何レノトキヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得(明治十四年二月太政官布告第四號ヲ以テ本項改正)

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ(明治十四年二月太政官布告第四號ヲ以テ本項追加)

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改選スヘシ

第五章 常置委員 (明治十三年十一月太政官布告第四十九號ヲ以テ本章追加)

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本項追加)

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘシ(同上)

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ

第四章 府會の行動 關係法令抜萃

付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得(明治十四年二月太政官布告第四號同十五年十二月太政官布告第六十八號ヲ以テ本條改正)

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取り會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本條改正)

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本條改正)

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二箇年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本條改正)

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス(明治十五年二月太政官布告第十號ヲ以テ本條改正)

第四十八條 常置委員ハ參拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

◎區郡部會規則關係

區郡部會規則制定 (明治十四年二月十四日太政官布告第八號)

區郡部會規則中削除追加 (明治十五年二月十四日太政官布告第十二號)

郡部會常置委員選任方布達 (明治十四年三月五日東京府布達第百十六號)

區部會常置委員選任方布達 (明治十四年三月五日東京府布達第百十七號)

○區郡部會規則制定十三年第二十六號第二十七號布告廢止(明治十四年二月太政官布告第八號)

東京府京都府大阪府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年五月第二十六號及第二十七號布告廢止候條此旨布告候事

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス
第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條 區部ニ係ル營業稅雜種稅ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ殊ニスルコトヲ得

第七條 區部ニ於テ地方稅費目外特別ニ要スル費項アルトキハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ地方稅費ニ加フルコトヲ得

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

○區郡部會規則中削除追加 (明治十五年二月太政官布告第十二號)

明治十四年二月第八號布告區郡部會規則中左ノ通削除追加ス

第六條 削除

第七條 削除

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋稅ト爲スコトヲ得

○郡部會常置委員選任方布達 (明治十四年三月東京府布達第十六號)

東京府郡部會

郡部會ヲ設クルトキハ其議員中ヨリ五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘキ儀ト可相心得旨昨四日太政大臣ヨリ被相達候條此旨相達候事

○區部會常置委員選任方布達 (明治十四年三月東京府布達第十七號)

東京府區部會

區部會ヲ設クルトキハ其議員中ヨリ五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘキ儀ト可相心得旨昨四日太政大臣ヨリ被相達候條此旨相達候事

〔參照〕府縣制附則 (明治二十三年五月法律第三十五號)

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十四年二月第八號布告區郡部會規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

◎府縣會規則心得竝府縣會議定事項關係

府縣會規則ニ付心得條件

(明治十三年九月二十八日太政官達無號)

府縣會規則追加ニ付心得

(明治十三年十二月三日内務省達乙第四十八號)

府縣會規則追加ニ付心得達中改正

(明治十三年十二月二十三日内務省達乙第五十三號)

府縣會議定事項中細目ニ關スル件

(明治十四年二月十四日太政官布告第六號)

○府縣會規則ニ付心得條件 (明治十三年九月太政官達無號)

府縣會規則ノ儀ニ付左ノ二件爲心得相達候事

一 議員選舉ノ際郡區相當人員ノ外辭選者補闕ノ爲メ別ニ數名(五名以下)ヲ副選セシメ置クモ妨ケナシ

一 議長副議長共闕席スルトキハ議員中ニ於テ臨時議長ヲ公選シ其日ノ會議ヲ開クモ妨ケナシ

○府縣會規則追加ニ付心得 (明治十三年十二月内務省達乙第四十八號)

本年第四十九號ヲ以府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相達候事

一 常置委員ハ來十四年三月通常會ニ於テ選任シ其事務ハ十四年度即七月一日ヨリ取扱フモノトス

一 郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區選出ノ人員ヲ定ムルコトヲ得

一 常置委員補缺ノ爲相當ノ豫備員ヲ選ヒ置クモ妨ケナシ

一 第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ勤ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得

一 第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二ケ年タルヘシト雖モ若シ議員本分ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス

一 常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行スヘキモノトス

○府縣會規則追加ニ付心得達中改正 (明治十三年十二月内務省達乙第五十三號)

本年當省乙第四十八號達第一項ヲ取消シ更ニ左之通改正候條此旨爲心得相達候事

一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ選任スヘシ

一 十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ選舉セシムル臨時會ニ於テ議定セシム可シ

○府縣會議定事項中細目ニ關スル件 (明治十四年二月太政官布告第六號)

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事(明治二十三年五月法律第三十五號ニ依リ消滅)

◎府縣會議員選舉關係

府縣會議員選舉規則

(明治二十二年二月二十六日法律第六號)

市制施行ニ付府縣會議員選舉

及市公民ノ資格等制定

(明治二十二年二月二十六日法律第七號)

府縣會規則第十三條市制町村

制第十五條衆議院議員選舉法

第九條第十條ノ官吏ハ在職者

ニ限リ又非職、休職者ニテ議員

及市町村吏員タラントスル者

ハ許可ヲ受ケシム

(明治二十二年六月四日閣令第十八號)

○府縣會議員選舉規則 (明治二十二年二月法律第六號)

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ

期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齡及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界

ト爲シ其地租、納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者

ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ

算入スヘシ

第五條 (居住地外ニ於テ地租ヲ納ムル場合ノ届出方規定)

第六條 (選舉人名原簿及選舉人名簿縦覽ノ規定)

第七條 (選舉人名簿ノ脱漏誤載發見ノ場合申立ノ規定)

第八條 (前條申立ヲ調査シ名簿訂正告示ニ關スル件)

第九條 (前條審査ノ爲關係者召喚ニ關スル件)

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始

審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速

ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁

判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 (選舉人名簿確定期限「十一月十五日」ニ關スル件)

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス(以下略)

第十五條 (選舉ニ關スル府縣知事告示ノ件)

第十六條 (選舉ニ關スル郡區長告示ノ件)

第十七條 (選舉立會人ニ關スル規定)

第十八條 (選舉會長ニ關スル規定)

第十九條 (投票時間内投票シ得ル規定)

第二十條 (投票函選舉録及筆墨等備付ノ件)

第二十一條 (投票用紙ニ關スル件)

第二十二條 選舉人ハ自ら投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人竝ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ら之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 (投票代書ヲ許スノ規定)

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラルヘキ裁

判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 (選舉會場取締ニ關スル件)

第二十九條 (同上)

第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 (投票函閉鎖ニ關スル規定)

第三十二條 (點數簿ニ關スル件)

第三十三條 (開票ヨリ點數簿記入等ニ關スル規定)

第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 (得點發表ニ關スル規定)

第三十六條 (開票ニ關シ書記ノ事務取扱方ニ關スル件)

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用キ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス
當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點

者ヲ以テ當選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 (點檢濟ノ投票保存ニ關スル規定)

第三十九條 (選舉錄ニ記入ヲ要スル事項ノ規定)

第四十條 (選舉錄ニ署名捺印ノ件)

第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 (無効投票ニ關スル規定)

第四十三條 (投票ノ效力ニ關スル規定)

第四十四條 (同上)

第四十五條 (同上)

第四十六條 (選舉分會ニ關スル規定)

第四十七條 (選舉分會ノ事務ニ關スル規定)

第四十八條 (同上)

第四十九條 (同上)

第五十條 (同上)

第五十一條 (當選者決定ニ關スル規定)

第五十二條 (選舉ノ結果報告ノ件)

第五十三條 (當選者氏名告示ノ件)

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ增選スルトキハ其選舉ハ正議員選舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補闕員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補闕員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ査定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 (選舉取消ニ關スル規定)

第五十九條 (選舉資格被選舉資格詐稱ニ關スル罰則)

第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條 (選舉ニ關スル罰則)

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附 則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ(以下省略)

○市制施行ニ付キ府縣會議員選舉及市公民ノ資格等制定 (明治二十二年二月法律第七號)

第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セス

第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選舉ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ市部ト稱スヘシ

第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選舉ノ區域ハ之ヲ變更セス其選舉事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其ノ金額ヲ併算スヘシ

○府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ノ官吏ハ在職者ニ限リ又非職、休職者ニテ議員及市町村吏員タラントスル者ハ許可ヲ受ケシム (明治二十二年六月閣令第十八號)

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス
非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

◎府縣會議員關係

府縣會議員任期

(明治十三年三月二十九日內務省達乙第十二號)

府縣會議員聯合集會等ヲ許サ

ス及其違反者處分方

(明治十五年十二月二十八日太政官布告第七十號)

議會並議員保護ノ件

(明治二十二年十一月七日法律第二十八號)

衆議院議員選舉法罰則補則ヲ

府縣會議員選舉ニ適用ノ件 (明治二十三年五月二十九日法律第四十一號)

府縣會議員定數規則 (明治二十四年六月九日勅令第五十九號)

府縣會議員定數規則ニ掲ケル

人口計算方 (明治二十四年六月十一日內務省訓令第十號)

府縣會議員定數規則中改正 (明治二十五年九月十日勅令第七十四號)

○府縣會議員任期 (明治十三年三月內務省達乙第十二號)

明治十一年第十八號公布第二十一條議員ノ任期四年トハ通常會ヲ四度勤ムル儀ト可相心得此旨相達候事

但第一回二年期モ本文ニ準シ二度トス

○府縣會議員聯合集會等ヲ許サス及其違反者處分方 (明治十五年十二月太政官布告第七十號)

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス
其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ
前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

右奉 勅旨布告候事

○議會並ニ議員保護ノ件 (明治二十二年十一月法律第二十八號)

- 第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○衆議院議員選舉法罰則補則ヲ府縣會議員選舉ニ適用ノ件 (明治二十三年五月法律第四十一號)

明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則ニ依ル選舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間

衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用ス但其第二條第一項ニ衆議院議員選舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員選舉規則第六十二條其ノ第二項ニ衆議院議員選舉法第九十三條ヲ適用府縣會議員選舉規則中此ノ法律ニ矛盾スルモノハ效力ヲ有セス

〔參照〕 衆議院議員選舉法罰則補則 (明治二十三年五月法律第四十號)

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ

隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第一百四條ノ例ニ依ル

○府縣會議員定數規則 (明治二十四年六月勅令第五十九號)

第一條 府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ
管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎一人ヲ増ス
第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ每郡市ニ割當選舉スルモノトス
第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改選期ヲ待テ之ヲ増減スヘシ

○府縣會議員定數規則ニ掲クル人口計算方 (明治二十四年六月内務省訓令第十號)

府

縣 沖繩縣
縣 沖繩縣
縣 沖繩縣

本年六月勅令第五十九號ニ掲クル人口ハ毎年十二月末日ノ現住人口ヲ云フ但在營在職ノ現役軍人ハ其營所又ハ定繫港所在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラ

○府縣會議員定數規則中改正 (明治二十五年九月勅令第七十六號)

明治二十四年六月勅令第五十九號府縣會議員定數規則中左ノ一條ヲ追加ス
第四條 府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ市郡ニ分別シタル府縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ其定數ヲ十名ト爲スヘシ

◎地方稅關係

地方稅規則制定	(明治十一年七月二十二日太政官布告第十九號)
同 規則全文改正	(明治十三年四月八日太政官布告第十六號)
同 規則追加	(明治十三年五月二十七日太政官布告第二十六號)
同 規則中改正	(明治十三年十一月五日太政官布告第四十八號)
同 規則中追加刪除	(明治十四年二月十四日太政官布告第五號)
同 規則中刪除	(明治十四年二月十四日太政官布告第十號)

同 規則中改正	(明治十五年一月二十日太政官布告第二號)
同 規則中改正	(明治十五年十二月二十八日太政官布告第六十九號)
同 規則中改正	(明治十七年五月七日太政官布告第十三號)
同 規則中改正	(明治十七年十二月八日太政官布告第二十九號)
東京府地方稅取扱方	(明治十三年五月二十七日太政官布告第二十七號)
府縣稅徵收法	(明治二十三年九月三十日法律第八十八號)

○地方稅規則 (明治十一年七月太政官布告第十九號)

従前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セル府縣費區費ヲ改メ更ニ地方稅トシ規則左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

- 一 地租五分一以内
- 一 營業稅並雜種稅
- 一 戶數割
- 第二條 營業稅雜種稅ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

- 一 警察費
- 一 河港道路堤防橋梁建築修繕費
- 一 府縣會議諸費

- 一流行病豫防費
- 一府縣立學校費及小學校補助費
- 一郡區廳舍建築修繕費
- 一郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一病院及救育所諸費
- 一浦役場及難破船諸費
- 一管内限リ諸達書及揭示諸費
- 一勸業費
- 一戸長以下給料及戸長職務取扱諸費
- 各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任セ地方稅ヲ以テ支辨スルノ限ニアラス

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算竝地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年五月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ其未夕府縣會ヲ設置セサル地方ハ直ニ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ內務卿及大藏卿ニ報告スルハ第四條ノ順序ニ從フヘシ其急施ヲ要スル事項ハ施行シテ後報告スヘシ

但報告期限ハ第七條ニ依ル

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ毎年七月ニ至リ其一周年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シテ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ且翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

○地方稅規則改正 (明治十三年四月太政官布告第十六號)

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事(大正十五年三月法律第二十四號ヲ以テ廢止)

- 第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
 - 一 地租五分一以內
 - 一 營業稅並雜種稅
 - 一 戸數割
- 第二條 營業稅雜種稅ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ
 - 一 警察費
 - 一 河港道路堤防橋梁建築修繕費
 - 一 府縣會議諸費
 - 一 衛生及病院費

- 一 府縣立學校費及小學校補助費
- 一 郡區廳舎建築修繕費
- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 救育費

- 一 浦役場及難破船諸費
- 一 管内限リ諸達書及揭示諸費
- 一 勸業費

一 戸長以下給料及戸長職務取扱諸費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費 豫算外ニ生シタル不足ニ充ツヘキモノヲ云

各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任セ地方税ヲ以テ支辨スルノ限ニアラス

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算竝地方税徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年五月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條 非常ノ費用ハ 豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサルモノヲ云 別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ其急施ヲ要スル事項ハ府縣會ニ付セス便宜施行シテ後報告スルヲ得此場合ニ於テハ之ヲ其後開ク所ノ府縣會ニ報告スヘシ

第六條 地方税徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ毎年七月ニ至リ其一周年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シテ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ且翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第八條 府縣會若シ豫算ノ議案ヲ議定セサルカ又ハ議案ヲ議定スルニ及ハスシテ内務卿ヨリ閉會若クハ解散ヲ命シタルトキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務卿ハ前年度ノ豫算額ニ據テ徵收セシムルヲ得

第九條 島嶼ノ地方税ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

○地方税規則追加 (明治十三年五月太政官布告第二十六號)

明治十三年四月第十六號布告ニ左ノ一條ヲ追加候條此旨布告候事

第十條 區ノ地方税ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其議定ヲ得テ郡ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

○地方税規則中改正 (明治十三年十一月太政官布告第四十八號)

今般歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ増加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ左ノ通制定布告候事

第一條 本年四月第十六號布告第一條地方税目中地租五分一以内トアルヲ地租三分一以内ト改定ス

第二條 同上布告第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中左ノ三項ヲ增加ス

一 府縣廳舍建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ府縣土木即チ河港道路堤防橋梁建築修繕費費中官費下渡金ハ來ル十四年度ヨリ廢止トス

○地方稅規則中追加刪除 (明治十四年二月太政官布告第五號)

地方稅規則中左ノ通追加刪除候條此旨布告候事

第三條第二項改正

一 土木費 府縣ニ屬スル河港道路堤防橋梁建築修繕等ノ費用及區町村ニ屬スル同上ノ補助費

同條第五項改正

一 教育費 府縣ニ屬スル教育ノ費用及區町村立學校ノ補助費

同條第十二項 給料云々ノ次ヘ追加

一 地方稅取扱費 爲換方給料爲換手數料現金遞送等ノ費用

同條第十三項改正

一 豫備費 豫算外ニ生シタル事件ノ豫備費ノ費途ニ充ツヘキモノ

第五條中(其急施ヲ要スル事項云々)以下刪除

第七條改正

府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第八條 刪除

○地方稅規則改正布告中刪除 (明治十四年二月太政官布告第十號)

明治十三年十一月第四十八號布告第三條中(地方稅ヲ以テ支辨スヘキ)ノ十一字刪除候條此旨布告候事

○地方稅規則中改正 (明治十五年一月太政官布告第二號)

明治十三年四月第十六號布告地方稅規則中左ノ通改正明治十五年七月一日ヨリ施行ス

第二條 (種類)ノ下(及制限)ノ三字ヲ削ル

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一 警察費

一 警察廳舍建築修繕費

一 土木費

一 區町村土木補助費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費

一 教育費

- 一 區町村教育補助費
 - 一 郡區廳舎建築修繕費
 - 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
 - 一 救育費
 - 一 浦役場及難破船諸費
 - 一 諸達書及揭示諸費
 - 一 勸業費
 - 一 戸長以下給料及戸長職務取扱諸費
 - 一 地方稅取扱費府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲
換手數料現金遞送等ノ費用
 - 一 府縣廳舎建築修繕費
 - 一 府縣監獄費
 - 一 府縣監獄建築修繕費
 - 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス
 - 一 豫備費豫算外ニ生シタル事件
ノ費途ニ充ツヘキモノ
- 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

○地方稅規則中改正 (明治十五年十二月太政官布告第六十九號)

明治十三年四月第十六號布告地方稅規則中左ノ通追加改正ス

第三條 二十項

- 一 豫備費豫算外ニ生シタル事件ノ費途
及豫算ノ臨時不足ニ充ル者

第四條 二項

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得

第五條 二項

前年度豫算決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得

○地方稅規則中改正 (明治十七年五月太政官布告第十三號)

明治十三年四月第十六號布告地方稅規則第三條第十五項ヲ左ノ通改正シ十七年度ヨリ施行ス

- 一 戸長以下給料旅費

○地方稅規則中改正 (明治十七年十二月太政官布告第二十九號)

明治十三年四月第十六號布告地方稅規則第四條一項左ノ通改正シ明治十九年度ヨリ施行ス但明治十八年度ハ明治十八年七月ヨリ翌年三月マテ九箇月ヲ以テ一周年度トス
其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨

スヘキ經費ノ豫算竝地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

○地方稅規則(修正) (明治十七年十二月現在)

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス(明治二十三年法律第三十五號ニ依リ本條消滅)

一 地租三分一以内(明治十三年十一月太政官布告第四十八號ヲ以テ本項改正)

一 營業稅竝雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(明治十五年一月太政官布告第二號ヲ以テ本條改正)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(明治十五年一月太政官布告第二號ヲ以テ本條改正)

- 一 警察費
- 一 警察廳舍建築修繕費
- 一 土木費
- 一 區町村土木補助費
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費
- 一 教育費

一 區町村教育補助費

一 郡區廳舍建築修繕費

一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費

一 教育費

一 浦役場及難破船諸費(明治二十一年法律第一號市制及町村制ニ依リ本項消滅)

一 諸達書及揭示諸費

一 勸業費

一 戶長以下給料旅費(明治十七年五月太政官布告第十三號ヲ以テ本項改正)

一 地方稅取扱費 府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲
換手數料現金遞送等ノ費用

一 府縣廳舍建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費 豫算外ニ生シタル事件ノ費途(明治十五年十二月太政官布告
及豫算ノ臨時不足ニ充ル者)第六十九號ヲ以テ本項改正

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月(七月)ヨリ翌年三月(六月)迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月(二月)迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算竝地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其

府縣會ノ議決ヲ取り其年二月(五月)ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(明治十七年太政官
布告第二十九號ヲ以テ本條改正明治十九年度ヨリ施行)

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ
經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間
之ヲ施行スルコトヲ得(明治二十五年十二月太政官布告第六十九號ヲ以テ本項追加)

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣
會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(明治十四年二月太政官布告第五號ヲ以テ本項改正)
前年度豫算決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキ
ハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(明治十五年十二月太政
官布告第六十九號ヲ以テ本項追加)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ一週年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ
於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(明治十四年二月太政官布告
第五號ヲ以テ改正)

第八條 (明治十四年二月太政官布告
第五號ヲ以テ本條削除)

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其
裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第十條 (明治十三年五月太政官布告第二十六號ヲ以テ本條追加)
(明治十四年太政官布告第八號ヲ以テ本條削除)

○東京府地方稅取扱方 (明治十三年五月太政官布告第二十七號)

東京府地方稅取扱方左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會ノ議決ヲ經テ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得
テ其制限ヲ殊ニスルコトヲ得

第二條 東京府ハ府會ノ議決ニヨリ水道費瓦斯燈費及ヒ火災豫防費ヲ以テ地方稅費目中ニ
加フルコトヲ得

○府縣稅徵收法 (明治二十三年九月法律第八十八號)

第一條 市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アルモノトス
地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其市町村ニ交付ス
ヘシ但東京市京都市大阪市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘ
シ

第三條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府
縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受クルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコ
トヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵

稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ交付スルコトヲ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人及徵稅令書ヲ受ケタル市ノ各納稅人ハ稅金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其領收證書ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

市町村ハ其徵收シタル稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス

第七條ニ依ル各納稅人ハ稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

第九條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限ノ處分ヲ受クルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財産ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先チ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅ノ例ニ依ル

第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲スヘキ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方稅ノ徵收ニ適用ス

第十五條 此法律ハ明治二十四年度所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ス

◎營業稅雜種稅關係

營業稅雜種稅ノ種類及制限制定 (明治十一年十二月二十日太政官布告第三十九號)

同規則全文改正 (明治十三年四月八日太政官布告第十七號)

同規則中追加 (明治十四年二月十四日太政官布告第九號)

同規則中改正 (明治十五年一月二十日太政官布告第三號)

○營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限 (明治十一年十二月太政官布告第三十九號)

地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 營業稅分ツテ三類トス其稅額第一類ハ金拾五圓以內トシ第二類ハ金拾圓以內トシ

第三類ハ金五圓以內トス其目左ノ如シ

但國稅アルモノヲ除ク

第一類

諸會社及ヒ諸卸賣商

第四章 府會の行動 關係法令拔萃

第二類

諸仲買商

第三類

諸小賣商及ヒ雜商

第二條 雜種稅ハ其種類ニ依リ各箇ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

船明治七年第二十一號 馬車、人力車、荷積馬車、荷積大車、荷積中車、荷積牛車ノ類 國稅ノ半額以內

諸市場 演劇其他諸興行並遊覽所 上リ高百分五以內

諸遊技場 玉突、大弓、楊弓、射的、吹矢ノ類 一ケ年金貳拾圓以內

料理屋西洋料 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 人寄席 一ケ年金拾貳圓以內

質屋 兩換屋爲替 廻漕店 一ケ年金拾五圓以內

古着、古金、古道具、類畫骨 旅籠屋 諸飲食店鰻屋、鮓屋、蕎麥屋ノ類 一ケ年金拾圓以內

湯屋 理髮床 雇人諸宿 一ケ年金五圓以內

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 一ケ年金拾貳圓以內

俳優 一ケ年金六拾圓以內

幫間 藝妓 一ケ年金四拾貳圓以內

水車 一ケ年金五圓以內

乘馬自用 渡 一ケ年一頭ニ付金壹圓以內

屠牛 一頭ニ付金五拾錢以內

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新

法ヲ創設セントスルモノハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿へ稟議スヘシ

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅額制限内ニ於テ各箇ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 一軒内ニ於テ數種ノ營業ヲ爲スモノ又ハ卸賣仲買小賣ヲ兼ヌルモノハ其稅額ノ最モ多キモノ一箇ノミヲ徵收スヘシ

第七條 凡ソ稅額ハ一ケ年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

○營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限改正 (明治十三年四月太政官布告第十七號)

明治十一年十二月二十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 營業稅目左ノ如シ其制限金拾五圓以內トス
但國稅アルモノヲ除ク

會社
卸賣商
仲買商
小賣商
雜商

第二條 雜種稅ハ其種類ニ依リ各箇ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

製造所 一ケ年拾五圓以內

船明治七年第二十一號 馬車人力車荷積馬車荷積大七 國稅ノ半額以內

市場 演劇其他興行並遊覽所 上リ高百分五以內

遊技場玉突大弓楊弓射的吹矢ノ類 一ケ年拾貳圓以內

料理屋西洋料理屋共 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 人寄席 一ケ年拾貳圓以內

質屋 兩換屋店共爲替 陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者 一ケ年拾五圓以內

古着古金古道具類書畫骨董店共 旅籠屋 諸飲食店鰻屋鮓屋蕎麥屋ノ類 一ケ年拾圓以內

湯屋 理髮床 雇人請宿 一ケ年拾五圓以內

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 一ケ年拾貳圓以內

俳優 一ケ年拾圓以內

習間 藝妓 一ケ年拾圓以內

水車 一ケ年拾五圓以內

乘馬自用渡世共 一ケ年一頭ニ付金壹圓以內

屠畜 一頭ニ付金五拾錢以內

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新

法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政

府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨ス

ルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅額制限内ニ

於テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 凡ソ稅額ハ一ケ年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅

月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以テ日稅

月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告ス

ヘシ

第九條 第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ

府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

○營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限中追加 (明治十四年二月太政官布告第九號)

工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(明治十四年二月太政官布告第九號ヲ以テ追加改正)

料理屋 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 飲食店ノ類

湯屋

理髮人

傭人受宿

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 俳優 幫間 藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場玉突大弓楊弓射的吹矢ノ類

人寄席

船舳漁船川船及五車馬車人力車荷積馬車荷積大七

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業 採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅

ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政
府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (明治十五年一月太政官布告第三號ヲ以テ本條削除)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨ス
ルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ
査定スヘシ(明治十五年一月太政官布告第三號ヲ以テ本條改正)

第六條 (明治十五年一月太政官布告第三號ヲ以テ本條削除)

第七條 (同上)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告ス
ヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府
知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(明治十五年一月太政官布告第
三號ヲ以テ本條改正)

◎國費支辨ト地方費支辨關係

地方廳費及官舎建築修繕費等

官費卜定ム

(明治十年一月二十九日太政官達第十六號)

地方稅費目中官費支出ニ係ル

モノ從前ノ通下付ノ件

(明治十一年七月二十二日太政官達第三十號)

警察署分署建築修繕國庫下渡

金ト地方稅ト連帶支辨

(明治十三年四月三十日太政官達第二十九號)

府縣警察費ニ對シ國庫下渡金

割合

(明治十四年二月二十八日太政官布告第十六號)

集治監ニ入ルヘキ囚徒並其費

用區分

(明治十四年三月八日太政官布告第十七號)

已決囚ニ係ル經費區分取計方

(明治十四年七月二十一日內務省達乙第三十四號)

已決囚ニ係ル經費區分取計方

達中追加

(明治十四年九月一日內務省達乙第四十二號)

在府縣獄囚徒費取扱方改定

(明治十七年六月二十日內務省達乙第二十九號)

府縣警察費國庫下渡金割合改

定

(明治二十一年八月七日勅令第六十一號)

集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ

府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ

交付ノ金額地方稅編入方

(明治二十一年九月二十九日內務省訓令第十九號)

○地方廳費及官舎建築修繕費等官費ト定ム

(明治十年一月太政官達第十六號)

從前地方廳費及ヒ官舎建築修繕費其管内ノ民費ニ賦課シ來候處自今官費ト相定候條此旨相

達候事

○地方稅費目中官費支出ニ係ルモノ從前ノ通下付ノ件

(明治十一年七月太政官達第

三十號)

今般第十九號布告ノ通地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目相定候ヘトモ右費目中官費支出ニ係ル者ハ猶從前ノ通下ケ渡スヘク候條此旨相達候事

○警察署分署建築修繕費國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨

(明治十三年四月太政官達

第二十九號)

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年一月第十六號ヲ以テ相達置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○府縣警察費ニ對シ國庫下渡金割合

(明治十四年二月太政官布告第十六號)

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 東京府ハ警察費總高ノ拾分ノ六トス

第二條 京都府大阪府並各縣沖繩縣ヲ除クハ地方稅支出高ノ拾分ノ三トス

第三條 前二ヶ條割合ノ外警察官吏巡查ヲ除クノ並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

○集治監ニ入ルヘキ囚徒竝其ノ費用區分 (明治十四年三月太政官布告第十七號)
集治監ニ入ルヘキ囚徒竝ニ其費用ノ區分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費用
府縣獄ニ拘留中ノ費用並ニハ國庫ヨリ支給スヘシ
集治監ニ押送ノ費用トモ
第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方
稅ヲ以テ支辨スヘシ

○已決囚ニ係ル經費區分取計方 (明治十四年七月内務省達「大藏卿連署」乙第三十四號)

警 視 廳
府 縣 廳
集 治 監

本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左之通可心得
此旨相達候事

一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金ト地方税金トハ混一シテ諸費ノ懲役人ヲ仕賄置每一ケ
月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均シテ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事
犯五年以上ノ延人員ニ準シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事
但臨時加給療養費埋葬費寫眞費移轉費ノ如キ總囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均

ヲ以テ算出スヘシ

一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取
計事

○已決囚ニ係ル經費區分取計方達中追加 (明治十四年九月内務省達乙第四十二號)

警 視 廳
府 縣 廳
集 治 監

本年七月乙第三十四號内務大藏兩卿達中第一項第二行ノ挿註(懲役人ノ諸費)ノ下(並ニ看守俸給押
師醫師授業手等ノ備給及)ノ三十五字ヲ追加候條此旨更ニ相達候事
ヒ看守押丁賄料被服費)

○在府縣獄囚徒費取扱方改定 (明治十七年六月内務省達乙第二十九號)

警 視 廳
府 縣 廳

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改定候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事
但十四年七月内務大藏兩省乙第三十四號同年九月乙第四拾貳號十五年十月乙第五拾參號
之達ハ十六年度限り廢止ス

一集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切 從前ノ獄署費已ノ費用トシテ
一囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ

但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ
 一十四年十月乙第五十三號達之内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告濟人員ニヨリ左ノ科
 目表ニ照準豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ
 但十七年度分ハ差出ニ及ハス
 (科目表省略)

○府縣警察費國庫下渡金割合改定 (明治二十一年八月勅令第六十一號)

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方稅中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總

高ノ拾分ノ四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏竝ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前
 ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付ノ金額地方稅
 編入方 (明治二十一年九月内務省訓令第十九號)

明治十七年本省乙第二十九號達ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用
 警視廳 府 縣沖繩縣ヲ除ク

トシテ交付スル金額ハ府縣會ノ議決ヲ經地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

◎會計年度關係

會計年度改定 (明治七年十月十三日太政官達番外無號)

會計年度改定 (明治十七年十月二十八日太政官達第八十九號)

○會計年度改定 (明治七年十月太政官達番外無號)

府 縣
 金穀出納ノ儀每歲一月ヨリ十二月迄ヲ以テ分界相立來リ候處更ニ其年七月一日ヨリ翌年六
 月三十日迄ヲ以テ分界ヲ立テ會計上ノ一週年ト相定候條左ノ條件ノ通相心得來明治八年七
 月一日ヨリ改正可致此旨相達候事
 (以下略)

○會計年度改定 (明治十七年十月太政官達第八十九號)

官省 院 廳 府 縣
 明治七年十月達會計年度ヲ改メ明治十九年度以降其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテヲ
 以テ會計一週年度ト相定メ候條此旨相達候事
 但來明治十八年度ハ同年七月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ九箇月ヲ以テ一週年度トシ
 豫算取計可申事

◎郡區町村編制關係

- 郡區町村編制法制定 (明治十一年七月二十二日太政官布告第十七號)
- 同 法追加 (明治十三年四月八日太政官布告第十四號)
- 郡區設置 (明治十三年五月五日太政官布告第二十二號)
- 市制及町村制 (明治二十一年四月十七日法律第一號)
- 市制中東京市京都市大阪市ニ (明治二十二年三月二十二日法律第十二號)
- 特例ヲ設クルノ件 (明治十一年七月二十二日太政官達無號)
- 郡區町村編制府縣會規則地方 (明治十一年七月二十二日太政官達無號)
- 稅規則施行順序

○郡區町村編制法 (明治十一年七月太政官布告第十七號)

- 郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事
- 第一條 地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス
- 第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル
- 第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡トナス 東西南北上中下某郡ト云カ如シ
- 第四條 三府五港其他人民輻輳ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス

第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹小ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クコトヲ得

第六條 每町村ニ戶長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クコトヲ得
但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戶長ノ事務ヲ兼ヌルコトヲ得

○郡區町村編制法追加 (明治十三年四月太政官布告第十四號)

- 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法左ノ通追加候條此旨布告候事
- 第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得
- 第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得
- 第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ
- 但町村區域名稱ノ變更ハ內務卿ノ認可ヲ受クヘシ

○郡區設置 (明治十三年五月太政官布告第二十二號)

明治十一年七月第十七號布告郡區編制法ニ依リ従前ノ一郡ヲ分割シ或ハ新ニ郡名ヲ設ケ又ハ區ヲ設置スルモノ別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

府	東京	神奈川
縣	武藏	武藏
國	「豊島ノ内」 <small>麹町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 本所區 深川區</small>	「豊島」 <small>北豊島郡 南葛飾郡 南足立郡 東多摩郡 南豊島郡</small>

○市制及町村制 (明治二十一年四月法律第一號)
 (條文省略)

○市制中東京市京都市大阪市ニ特例ヲ設クルノ件 (明治二十二年三月法律第十二號)

- 第一條 東京市京都市大阪市ニ於テハ市長及助役ヲ置カス市長ノ職務ハ府知事之ヲ行ヒ助役ノ職務ハ書記官之ヲ行フ
- 第二條 東京市京都市大阪市ノ市參事會ハ府知事書記官及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 東京市京都市大阪市ニ於テハ收入役書記其他ノ附屬員ヲ置カス府廳ノ官吏其職務ヲ行フ
- 第四條 東京市京都市大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存シ每區ニ區長一名及書記ヲ置キ有給吏

員ト爲シ市參事會之ヲ選任ス但書記ノ人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

第六條 東京市京都市大阪市ニ於テハ府知事ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政及府ノ行政竝收入役ノ事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七條 東京市京都市大阪市ニ於テ區ノ廢置分合ヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員選舉區ト爲ス

○郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序 (明治十一年七月太政官達無號)

今度第十七號第十八號第十九號ヲ以テ郡區町村編制府縣會規則地方稅規則布告候ニ就テハ施行ノ順序左ノ通心得ヘシ此旨相達候事

一(省略)

二(省略)

三(省略)

四三府及其他市街ノ區及町村ハ其地方ノ便宜ニ從テ町村會議又ハ區會議ヲ開キ及ヒ地方稅ノ外人民叶議ノ費用ハ地價割戸數割又ハ小間割間口割歩合金等其他慣習ノ舊法ヲ用フルコト勝手タルヘシ但町村會區會ノ章程規則ヲ制定スル分ハ內務卿ニ届出認可ヲ受クヘシ五地方ノ事情ニ因リ府縣會開設ノ緩急モ可有之ニ就キ開否共地方長官ノ意見ヲ以テ內務卿

ニ具申スヘシ

六議員ノ員數郡區ノ大小ニ應シ均一ナラサルヘキニ就キ初度ノ選舉ニ於テハ地方官ノ見ル所ヲ以テ各郡區ノ多寡ヲ定メ更ニ議會ノ議ニ付シ其第二度選舉ヨリ初度選舉ヨリ第三年ヨリハ議會ノ議決スル所ノ員數ニ從フヘシ

七地方稅規則ニ依リ改正スルハ明治十一年度ヨリ施行スルモ十二年度ヨリ施行スルモ各府縣長官ヨリ内務卿ニ具申シテ便宜ニ從フヘシ但十二年度ヲ超ユルヲ得ス

八地方稅從前地所割戸數割相半シ或ハ地所幾歩戸數幾歩ニ課スル等各地方ノ慣習一樣ナラサル者一切各地方ノ便宜ニ從ハシム

九營業稅及雜種稅ハ別段ノ布告ニ從テ各定分アリ該年度費用ノ多寡ヲ以テ増減アルコトナカルヘシ故ニ地方稅ノ豫算ハ其營業稅雜種稅ノ徵收額ヲ除ク外其他地價割戸數割ヲ以テ賦課スルハ其年度ノ費用ニ從ヒ増減アルヘシ

十定リタル地方稅費目ノ外猶地方ノ要用ニ屬スル項目アルトキハ内務卿ヲ經テ陳請シ特ニ政府ノ裁定ヲ仰クヘシ

十一戸長ハ行政事務ニ從事スルト町村ノ理事者タルト二様ノ性質ノ者ニ付其費用ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘキト町村又ハ區限協議費ヲ以テ支辨スヘキトハ其事務ニ就キ區分スヘシ

十二地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件ト町村又ハ區限ノ協議費ヲ以テ支辨スヘキ事件トノ區分ハ凡ソ地方一般ノ利害ニ關スヘキモノハ地方稅支辨ノ部ニ屬シ其町村限區限又ハ數町村共同ノ利害ニ係ルモノハ其町村又ハ區内限協議費ノ支辨ニ屬スヘシ

◎其ノ他ノ法令

明治十七年度地方稅出納決算
報告方
（明治十八年七月二十五日太政官布告第十九號）

東京市區改正條例
公共財產管理方
（明治二十一年八月十六日勅令第六十二號）

地方稅經濟ニ於テ非常災害ノ
タメニ要スル土木費借入方
（明治二十三年一月二十日法律第二號）

明治二十三年法律第三號ハ府
縣制施行地ニ限リ廢止
（明治二十三年八月二十七日法律第七十四號）

○明治十七年度地方稅出納決算報告方（明治十八年七月太政官布告第十九號）

明治十七年度地方稅出納決算ハ明治十九年通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ然ル後内務卿及大藏卿ニ報告スルコトヲ得

○東京市區改正條例方（明治二十一年八月勅令第六十二號）

第一條 東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ内務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一 地租割 地租同額以内但耕地ヲ除ク

一 營業稅並雜種稅 地方稅十分ノ四以内

一 家屋稅 同上

一 清酒 區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五拾錢以内

第四條 (省略)

第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部ノ基本財産トシテ即今官用ニ供セサル東京府區部内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス

但已ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條 市區改正ノ經費及特別稅賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

第七條 第三條第五條ノ收入合計ハ毎年度參拾五萬圓ヨリ少カラス五拾萬圓ヨリ多カラサルモノトス但毎年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額ニ合算スルコトヲ得ス

第八條 (省略)

第九條 東京府知事ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテヲ一周年度トナシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立テ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條 東京府知事ハ一周年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府區部會ニ報告シ然ル後内務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十一條 年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルトキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議定ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府區部會ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 市區改正ノ爲一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府區部ハ毎年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市區改正ニ屬スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ

第十四條 市區改正ノ事務ハ東京府知事其執行ノ責ニ任スヘシ

第十五條 市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○公共財産管理方 (明治二十二年一月内務省令第一號)

第一條 從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條 前條ノ財産ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條 公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

○地方稅經濟ニ於テ非常災害ノタメニ要スル土木費借入方 (明治二十三年一月法律第三號)

第一條 府縣ニ於テ非常災害ノ爲メ臨時ノ土木費ヲ要シ一時地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得十箇年以内ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲナスコトヲ得

第二條 前條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其年度初現在高ノ三分一マテ借入ルルコトヲ得但本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

第三條 借入金ノ認可ヲ得ントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○明治二十三年法律第三號ハ府縣制施行地ニ限り廢止 (明治二十三年八月二十七日法律第七十四號)

明治二十三年一月法律第三號ハ府縣制施行ノ地方ニ限り之ヲ廢止ス但府縣制施行以前法律第三號第二條ニ依リ既ニ備荒儲蓄金ヨリ借入ノ契約ヲ爲シ未タ其借入ヲ了セサルモノハ其契約ヲ繼續スルコトヲ得

東京府史 府會篇 第三卷 (完)

正 誤 表	
一頁 一〇行中	發議をなし
三七頁 一二行中	知事
五二頁 九行中	扮裝
九七頁 二行中	一金貳萬
一一六頁 四行中	橋梁費
一四二頁 二行中	府會議諸費
二二三頁 一行中	月給平均
二四三頁 三行中	金拾壹萬
三〇一頁 八行中	貳拾參錢九厘
三〇九頁 三行中	收支精算報告
三一六頁 二行中	殊に數種
四〇九頁 八行中	日地ニ
四四三頁 五行中	一月一日
五五九頁 五行中	伴フニ由ル
五九五頁 二行中	郡
六二〇頁 三行中	充ッル爲
六四七頁 五行中	八拾貳錢四厘
六五一頁 一〇行中	五拾參錢五厘
六八六頁 一行中	布告第十三號
六九七頁 七行中	府知事縣令
六九八頁 八行中	即チ河港
七二二頁 一四行中	地方稅費目ニ
一頁 一〇行中	發議なし
三二頁 二行中	知事
五二頁 九行中	扮裝
九七頁 二行中	一金貳萬
一一六頁 四行中	橋梁費
一四二頁 二行中	府會議諸費
二二三頁 一行中	月給平均
二四三頁 三行中	金拾壹圓
三〇一頁 八行中	貳拾參錢九錢
三〇九頁 三行中	收支精算報告
三一六頁 二行中	殊に數種
四〇九頁 八行中	日地ニ
四四三頁 五行中	一月一日
五五九頁 五行中	伴フニ理ル
五九五頁 二行中	郡
六二〇頁 三行中	充ッル於
六四七頁 五行中	八拾貳錢四錢
六五一頁 一〇行中	五拾參錢八厘
六八六頁 一行中	布告第十二號
六九七頁 七行中	府知事縣令
六九八頁 八行中	即チ府港
七二二頁 一四行中	地方稅費ニ